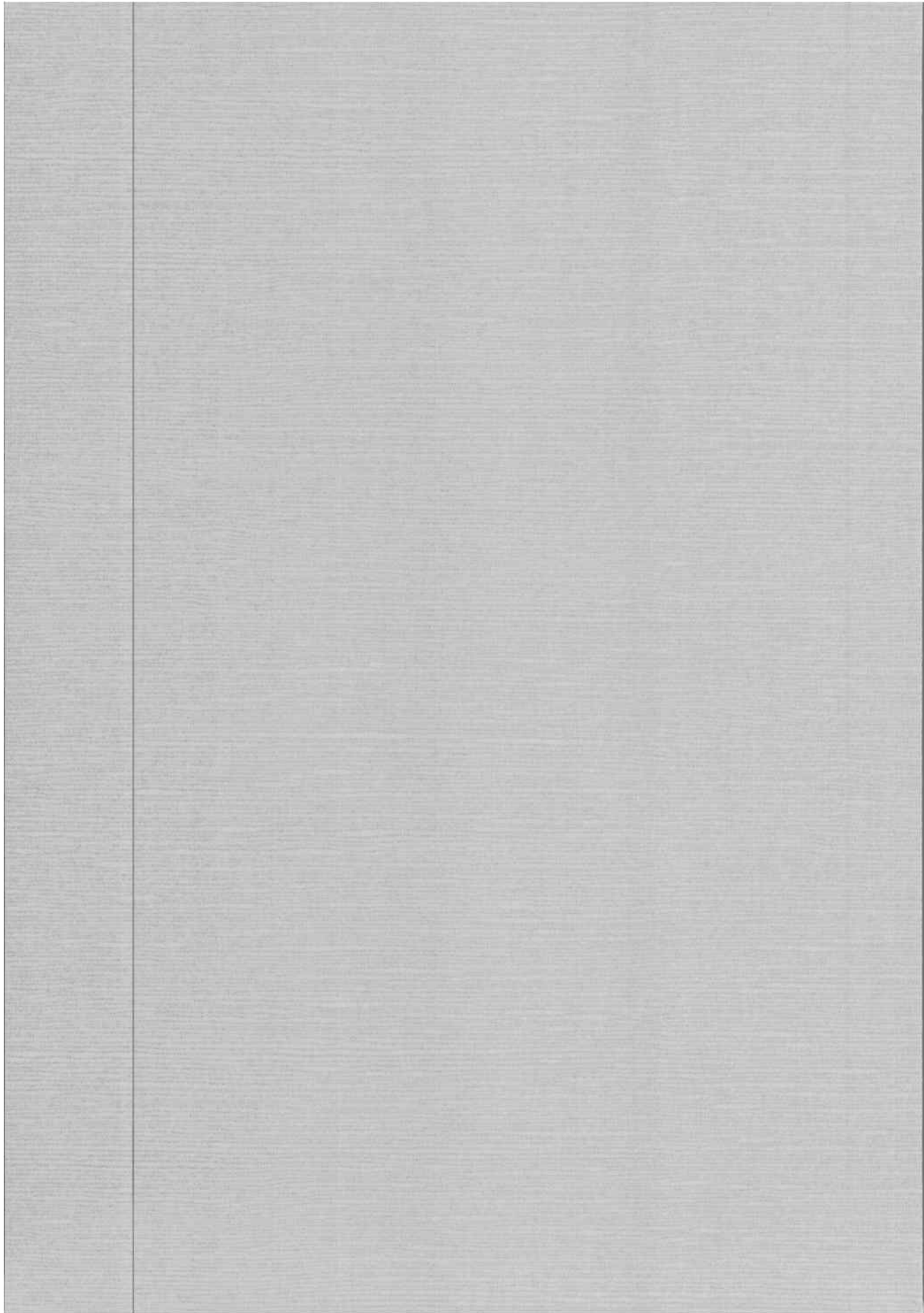


# 紀 要

第 4 号

〈平成5年度〉

茅野市八ヶ岳総合博物館



## 発刊によせて

当博物館は、茅野市の「りんどうの里 高原生涯学習都市」構想に於ける科学的情報センターとして、市民が郷土の自然・風土や、そこに生きた人々の歴史や生活に接し、自ら学習する意欲を高め、継続的・発展的に学習を深化拡充する場としての役割を担って、5年を過ぎました。その間、科学的情報の発信源として、知る楽しみを深め、回を重ねて学ぶ楽しさを知っていただくべく、諸々の行事を組み努力を致して来ました。

今年度の「民俗資料収蔵品展」では「着る」をテーマに、明治・大正・昭和にかけての人々の生活を、当時の衣服を通し偲ぶ事ができました。「写真展」では、西村豊先生の長年かけて撮られたキツネの四季折々の写真を目にし、自然の美しさとそこに生きる狐の細やかな生活に心を打たれました。また、市内小中学生を対象とした、「研究・創意工夫展」では、より質の高い作品が出品され、年毎に充実をしております。喜ばしい次第です。

ロビー体験コーナーも二年目を迎え、多くの方々に体験を通しての学習に参加をしていただきました。特に親子での参加も増え、出来上がった作品に目をかがやかせ、親子共々喜ぶ姿に接する時、新しい博物館の歩む一つの方向を示しており、より一層の内容の充実と工夫が必要な事を痛感しております。また、地域の多くの方々に体験学習の指導者としてお願いし、すばらしい技と知恵を多くの参加者に体を通して知っていただけたのも大きな成果であり、指導者の方々に心より感謝を致しております。

今後、当博物館が生涯学習基礎センターの一つとして、多くの方々の学習する場となる為には、より地域の方々に博物館運営に参加していただき、地域に開かれた活動ができるよう、ボランティア活動等、一層の事業の工夫が大切であると思います。

さて、平成5年度のまとめとして、当館職員の調査・研究等を、紀要第4号として発刊するはこびとなりました。皆様方のお目にとまり、ご指導をいただければ幸いです。

終わりにになりましたが、今年度、種々の品々を当館にお寄せいただきました多くの方々、博物館の運営に諸々のご指導をいただきました。博物館協議員・専門委員の先生方、ご援助ご協力をいただきました関係各位の皆様方に、心より感謝を致しますとともに、今後とも、ご指導ご協力のほどよろしくお願い致します。

平成6年 3月

館長 篠原 淳 朗

# THE HISTORY OF THE

The history of the world is a vast and complex subject, encompassing the lives of countless individuals and the evolution of societies over time. From ancient civilizations to modern nations, the human experience is a tapestry of diverse cultures, beliefs, and achievements. This book aims to provide a comprehensive overview of these events, exploring the interconnectedness of global history and the impact of individual actions on the course of the world.

In the beginning, the world was a chaotic and unorganized mass of matter. Over time, the forces of nature shaped the Earth into the diverse and beautiful planet we know today. The first signs of life appeared, and through the process of evolution, the most complex organisms emerged. The dawn of human civilization marked a turning point in history, as our ancestors began to organize themselves into communities, develop language, and create art and culture.

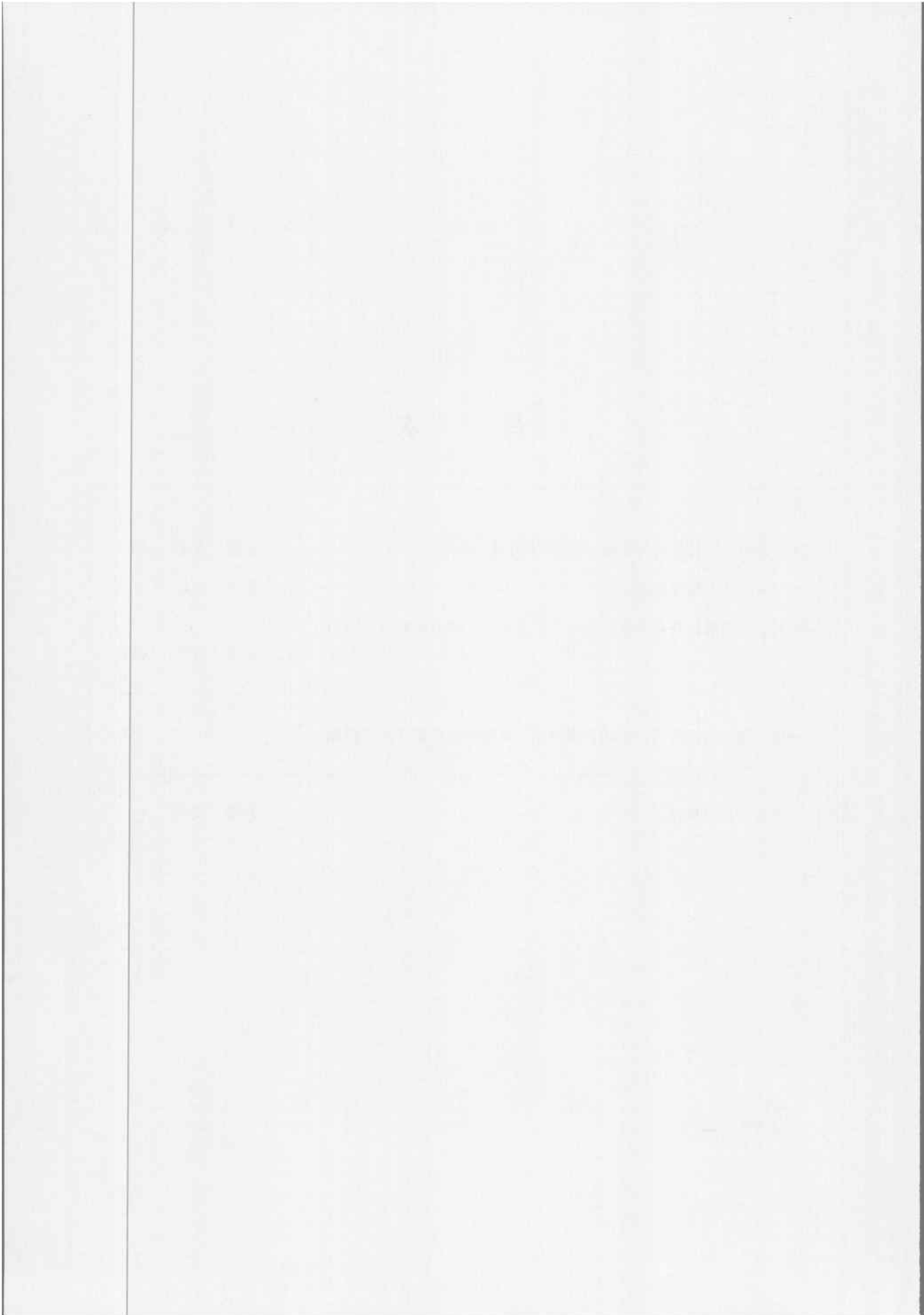
The ancient world was a time of great discovery and achievement. The Greeks and Romans laid the foundations of Western civilization, while the Chinese and Indians made significant contributions to science, mathematics, and philosophy. The Middle Ages saw the rise of powerful empires and the spread of Christianity, which shaped the cultural and religious landscape of Europe. The Renaissance brought a renewed interest in art, science, and humanism, paving the way for the modern world.

The modern era is characterized by rapid technological advancement and global interconnectedness. The Industrial Revolution transformed the way we live and work, while the scientific revolution expanded our understanding of the natural world. The 20th century was marked by two world wars, the Cold War, and the rise of new superpowers. Today, we face global challenges such as climate change, nuclear proliferation, and economic inequality, which require a collective effort to address.

The history of the world is a testament to the resilience and ingenuity of the human spirit. It is a story of triumph and tragedy, of hope and despair, of the triumph of good over evil. As we look to the future, we must learn from the lessons of the past and work together to create a better world for all.

## 目 次

- |                                |             |      |
|--------------------------------|-------------|------|
| ・茅野市八ヶ岳総合博物館 鳥類標本目録            | 永富 直子       | (1)  |
| ・ヤマユガ飼育日誌                      | 松沢 かね       | (11) |
| ・八ヶ岳山麓に分布するシラビソ・コメツガ林の更新の一例(1) | 大谷 勝己・永富 直子 | (23) |
| <hr/>                          |             |      |
| ・年 報 (茅野市八ヶ岳総合博物館・茅野市神長官守矢史料館) |             | (33) |
| <hr/>                          |             |      |
| ・守矢文書の整理について                   | 芳澤 美香       | (一)  |



# 茅野市八ヶ岳総合博物館 鳥類標本目録

永 富 直 子\*

## 1. はじめに

茅野市八ヶ岳総合博物館は1985年(昭和60年)に「展示専門委員会」が発足し、1988年(昭和63年)の開館に至るまで、各分野担当の専門家によって調査や資料収集が行われた。

展示資料および収蔵資料として必要な鳥類の剥製を入手するにあたっては、当時展示専門委員であった、豊平小学校教諭 野沢進之輔氏(現 岡谷市立神明小学校)が尽力され、小学校関係者や地元の方々に広く呼びかけ、ガラスに衝突するなど事故死した鳥を収集し、短期間に必要な種類をそろえることができた。

一方で、採集日や個体の性別、年齢などについて正確な記録が残っていなかったり、剥製製作業者より購入した剥製については添付されている輸入証明書に性別や年齢に誤りがあるものがある。

このような経過から、開館以前に収集した資料についてはデータが不十分なままであるが、購入した剥製や、開館後に収集した拾得状況が明らかな資料と併せて、性別や年齢を再検討し、1994年3月現在、当館に収蔵の鳥類の剥製標本を目録に整理したので報告する。

## 2. 凡 例

(1).1989年以降の拾得状況が明らかな資料については、種名の次に、採集地、個体数と性別(♂;雄, ♀;雌), 年齢(幼;幼鳥, 若;若鳥, 成;成鳥), 採集日, 採集者の順で記した。性別の表記のないものは、性別は不明。また「幼鳥」は第1回目の換羽までの個体を指す。第1回換羽後の個体で、羽毛の様相からその年齢が判断できるものについてはその羽毛の状態と年齢を( )に示し、年齢不明のものは無表記とした。なお、採集者が茅野市職員および関係施設職員である場合は、採集者は記していない。

(2).1988年以前に拾得した資料の採集地、採集日、採集者については、記録がある範囲で記した。採集地が諏訪地方であるが場所が特定できないものは「拾得」と記した。なお、「諏訪地方」とは、岡谷市、下諏訪町、諏訪市、茅野市、富士見町、原村の範囲を指す。

(3)。「購入」は、剥製製作業者から購入した剥製である。拾得された場所が明らかなものはその場所を記し、業者が海外から輸入し製作したものは「輸入」と示し、個体数、性別、種類、購入した年度(S;昭和, H.;平成)の順で記した。

(4)。「寄贈」は、剥製に製作した状態での寄贈である。

\*茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員

### 3. 目 録

#### ガンカモ目 ガンカモ科

コハクチョウ *Cygnus columbianus*

岡谷市 南宮 横河川河口 : 1 幼, 9.Dec.1988, 両角保雄 ; 1♀ 成, 14.Jan.1994,  
花岡幸一.

マガモ *Anas platyrhynchos*

購入 : 諏訪地方, 1♂ ; 1♀, S.62年度.

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

購入 : 諏訪地方, 1, S.62年.

ハンビロガモ *Anas clypeata*

購入 : 輸入, 1♂, H.4年度.

コガモ *Anas crecca*

購入 : 諏訪地方, 1♂ ; 1♀, S.62年度.

オシドリ *Aix galericulata*

購入 : 輸入, 1♂ ; 1♀, S.62年度.

オナガガモ *Anas acuta*

購入 : 輸入, 1♂ ; 1♀, H.4年度.

ヒドリガモ *Anas penelope*

購入 : 輸入, 1♂, H.4年度.

ホシハジロ *Aythya ferina*

購入 : 輸入, 1♂, H.4年度.

キンクロハジロ *Aythya fuligula*

購入 : 輸入, 1♂, H.4年度.

#### コウノトリ目 サギ科

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

岡谷市横河川河口 : 1成, 1988, 林 正敏.

#### ワシタカ目 ワシタカ科

イヌワシ *Aquila chrysaetos*

購入 : 輸入, 1 若, S.62年度.

ハチクマ *Pernis apivorus*

購入 : 輸入, 1, S.62年度.



トビ *Milvus migrans*

寄贈：1.

ノスリ *Buteo buteo*

購入：輸入，1，S.62年度.

オオタカ *Accipiter gentilis*

購入：輸入，1♂ 成；1♀ 幼，S.62年度.

ハイタカ *Accipiter nisus*

購入：輸入，1♀ 成，S.62年度. 岡谷市：1♀ 幼，1988.

ツミ *Accipiter gularis*

茅野市 豊平 福沢：1♂ 成，4.May.1993，矢澤久栄.

ワシタカ目 ハヤブサ科

チゴハヤブサ *Falco subbuteo*

購入：輸入，1成，S.62年度；1成，H.3年度.

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

購入：輸入，1♂ 成，S.62年度.

フクロウ目 フクロウ科

フクロウ *Strix uralensis*

購入：輸入，1，H.3年度.

コノハズク *Otus scops*

購入：輸入，1，H.2年度.

アオバズク *Ninox scutulata*

購入：輸入，1，S.62年度.

キジ目 キジ科

コジュケイ *Bambusicola thoracica*

購入：諏訪地方，1♂；1♀，S.62年度.

キジ *Phasianus colchicus*

購入：1♂ 成，S.62年度. 茅野市 豊平小学校：1♀，1987.

ヤマドリ *Phasianus soemmerringii*

購入：1♂，S.62年度；新潟県，1♀，S.62年度. 茅野市：1♀，1987.

茅野市 北山 蓼科：1♂ 成，17.May.1992，飛田四郎.

ハト目 ハト科

キジバト *Streptopelia orientalis*

購入：諏訪地方，1，S.62年度；2，H.3年度。

ホトトギス目 ホトトギス科

カッコウ *Cuculus canorus*

購入：輸入，1，H.1年度。茅野市 豊平 尖石考古館：1 幼，23.Aug.1992.

ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

購入：輸入，1♀（赤色型），H.1年度。

ブッポウソウ目 カワセミ科

ヤマセミ *Ceryle lugubris*

購入：輸入，1♀，H.1年度。

カワセミ *Alcedo atthis*

購入：輸入，1 幼，H.1年度。 購入：諏訪地方，1♂ 成，H.3年度。

ブッポウソウ目 ブッポウソウ科

ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*

購入：輸入，1，H.2年度。

キツツキ目 キツツキ科

アオゲラ *Picus awokera*

茅野市 玉川 山田：1♀，1987，小平安宏。茅野市 豊平 尖石考古館：1♂ 成，20.May.1990。茅野市 豊平小学校：1♂ 成，4.Aug.1991，野沢進之輔。茅野市 豊平 東京理科大諏訪短大：1♀ 成，10.May.1992。

アリスイ *Jynx torquilla*

購入：輸入，1，S.62年度。

アカゲラ *Dendrocopos major*

茅野市 豊平小学校：1♀，1987。茅野市 北山 蓼科：1♀，1987。茅野市 豊平 尖石考古館：1♂，22.Oct.1991。茅野市 北山 芹ヶ沢：1♀ 成，3.Jul.1993，梶 栄太郎。

スズメ目 セキレイ科

キセキレイ *Motacilla cinerea*

茅野市 豊平 尖石考古館：1♀ 成，23.Mar.1990。

小県郡 菅平：1 幼，26.May.1991。

- ビンズイ *Anthus hodgsoni*  
茅野市 豊平 尖石考古館：1 幼, Jun.1992, 武居八千代.
- スズメ目 ヒヨドリ科  
ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*  
茅野市 豊平小学校：1, 1986.
- スズメ目 モズ科  
モズ *Lanius bucephalus*  
茅野市 豊平：1♂, 1987. 下諏訪町 西鷹野 下諏訪総合文化センター：1♀  
(第1回冬羽), 5.Oct.1993, 阿部正則.
- アカモズ *Lanius cristatus*  
茅野市 豊平：1, 1987.
- ズメ目 レンジャク科  
ヒレンジャク *Bombycilla japonica*  
茅野市 豊平小学校：1, 1986；1, 1988. 諏訪市 小和田 八剣保育園：1, 27.Jan.  
1993, 野沢進之輔. 茅野市 北山 柏原公民館：1, 29.Jan.1993, 北沢健一.
- キレンジャク *Bombycilla garrulus*  
下諏訪町 西鷹野 下諏訪町役場：1♂, 18.Feb.1993, 阿部正則.
- スズメ目 カワガラス科  
カワガラス *Cinclus pallasii*  
茅野市 玉川 粟沢：1 幼, 15.Jun.1990, 藤原宗一.
- スズメ目 ミソサザイ科  
ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*  
購入：輸入, 1, H.1年度.
- スズメ目 イワヒバリ科  
カヤクグリ *Prunella rubida*  
購入：輸入, 1, H.1年度.
- スズメ目 ヒタキ科 ツグミ亜科  
コマドリ *Erithacus akahige*  
購入：輸入, 1♂, H.1年度.
- ノゴマ *Erithacus calliope*  
茅野市 豊平：1♂, 1988.
- コルリ *Erithacus cyane*  
茅野市 北山 蓼科：1♂ 成, 1987. 茅野市 豊平 尖石考古館：1 幼, 3.Aug.1990.  
茅野市 宮川 新井：1♀ (第1回冬羽), 31.Aug.1990.

ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*

購入：輸入，1♂；1♀，H.1年度。 茅野市八ヶ岳総合博物館：1♀，31.Jan.1993. 茅野市 豊平 福沢：1♀，31.Jan.1993.

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

購入：輸入，1♂，S.62年度.

トラツグミ *Turdus dauma*

茅野市 北山 蓼科：1，1987. 茅野市 北山小学校：1，3.Feb.1990，  
4学年児童. 茅野市 豊平 東京理科大諏訪短大：1，Mar.1991.

アカハラ *Turdus chrysolais*

茅野市 豊平小学校：2，1987.

クロググミ *Turdus cardis*

茅野市 豊平：1♂，1986；1♀，1987. 茅野市 豊平 尖石考古館：1♂（第1回夏羽），17.May.1990；1♀ 幼，13.Aug.1992；1♂（第1回冬羽），9.Sep.1990.

シロハラ *Turdus pallidus*

購入：諏訪地方，1（第1回冬羽），S.63年度.

ツグミ *Turdus naumanni*

茅野市 豊平小学校：1，1986.

スズメ目 ヒタキ科 ウグイス亜科

ウグイス *Cettia diphone*

購入：輸入，1♂，H.1年度。 茅野市 北山 柏原：1♀ 成，23.May.1989.  
茅野市 北山 蓼科：1♂，23.Oct.1990. 茅野市 玉川 中沢：1♀ 成，3.May.1991.

キクイタダキ *Regulus regulus*

購入：輸入，1♀，H.1年度.

センダイムシクイ *Phylloscopus occipitalis*

茅野市 豊平小学校：1，1988.

スズメ目 ヒタキ科 ヒタキ亜科

キビタキ *Ficedula narcissina*

購入：輸入，1♂，H.1年度.

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

購入：輸入，1♂ 成，H.3年度.

スズメ目 シジュウカラ科

ヒガラ *Parus ater*

茅野市 豊平 尖石考古館：1，1986. 茅野市 豊平小学校：1，1988.

シジュウカラ *Parus major*

茅野市 豊平 : 3♂ ; 2♀, 1986~87. 茅野市 豊平 尖石考古館 : 1 幼, 15.Sep. 1991 ; 1♀ (第1回冬羽), 15.Sep.1993.

スズメ目 エナガ科

エナガ *Aegithalos caudatus*

茅野市 豊平 : 1, 1987.

スズメ目 ゴジュウカラ科

ゴジュウカラ *Sitta europaea*

茅野市八ヶ岳総合博物館 : 1 幼, 24.Jun.1990.

購入 : 諏訪郡 富士見町 1, H.2年度.

スズメ目 メジロ科

メジロ *Zosterops japonica*

購入 : 輸入, 1, H.1年度.

スズメ目 ホオジロ科

ホオジロ *Emberiza cioides*

購入 : 1♂, S.62年度. 茅野市八ヶ岳総合博物館 : 2♂ (第1回冬羽), 23. Oct.

1988 ; 1♀, 7.Apr.1990 ; 1♀, 1.Apr.1992. 茅野市 豊平 尖石考古館 :

1♂, 8.May.1990.

カシラダカ *Emberiza rustica*

購入 : 1♂, S.62年度. 茅野市 豊平小学校 ; 1♂, 1986. 茅野市 北山 蓼科 :

1♂ (第1回夏羽), 14.Apr.1991 ; 1♀ (第1回夏羽), 20.Apr.1991. 茅野市 豊平

青少年自然の森 : 1♀ (第1回冬羽), 28.Oct.1993.

ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*

茅野市 豊平 青少年自然の森 : 1♂ 成, 14.Dec.1993 ; 1♂ 成, 25.Dec.1993.

アオジ *Emberiza spodocephala*

茅野市 豊平 : 2♂ ; 1 幼, 1986~88. 購入 : 輸入, 1♀ (第1回冬羽), H.1年度.

茅野市 豊平 尖石考古館 : 1♂ 成, Oct.1992.

ノジコ *Emberiza sulphurata*

茅野市 豊平 尖石考古館 : 1♂ 成, Oct.1992 ; 1 (第1回冬羽), 29.Aug.1993.

スズメ目 アトリ科

カワラヒワ *Carduelis sinica*

茅野市 豊平小学校 : 1♂ ; 1, 1987~88.

マヒワ *Carduelis spinus*

購入 : 輸入, 1♂, H.1年度.

アトリ *Fringilla montifringilla*

茅野市 米沢 中大塩団地 : 1♀, 14.Feb.1993.

ハギマシコ *Leucosticte actoa*

購入 : 諏訪郡 富士見町, 1, S.62年度.

イスカ *Loxia curvirostra*

拾得 : 1♂, 1988.

オオマシコ *Carpodacus roseus*

寄贈 : 茅野市 北山 蓼科, 1♀, 21.Mar.1989, 飛田四郎. 茅野市 北山 蓼科 :

2♂, 4.Apr.1992, 飛田四郎.

ベニマシコ *Uragus sibiricus*

茅野市 豊平 青少年自然の森 : 1♀, 22.Dec.1993.

ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

購入 : 輸入, 2, S.62年度.

イカル *Eophona personata*

購入 : 輸入, 1, H.1年度.

シメ *Coccothraustes coccothraustes*

茅野市 豊平小学校 : 1♂, 1986. 購入 : 輸入, 1♀, H.1年度. 茅野市 豊平

尖石考古館 : 1♂ 成, 16.Apr.1992.

スズメ目 ハタオリドリ科

スズメ *Passer montanus*

茅野市 玉川 中沢 : 1, 25.Jun.1990.

スズメ目 ムクドリ科

コムクドリ *Sturnus philippensis*

茅野市 豊平小学校 : 1♂ 成, 1987.

スズメ目 カラス科

カケス *Garrulus glandarius*

茅野市 豊平 : 1, 1987.

オナガ *Cyanopica cyana*

茅野市 北山 : 1, 1987. 購入 : 1, S.62年度.

ホシガラス *Nucifraga caryocatactes*

寄贈 : 1.

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

購入 : 諏訪郡 富士見町, 1, S.62年度.

ハシボソガラス *Corvus corone*

購入 : 諏訪郡 富士見町, 1, S.62年度.

#### 4. まとめ

1994年3月現在、当博物館収蔵の鳥類剥製標本は158点である。このうち、拾得し剥製標本にしたものは92点、購入した剥製は63点、寄贈された剥製は3点である。

拾得した鳥類の死亡の状況は、建物のガラスに衝突したものがほとんどであった。1989年以降のそれ以外の例は、飛行中に自動車に衝突したものの2件、ネコが咬殺したものの1件、猛禽類が捕らえたが空中で落としたりしたもの1件があった。

1988年以前に拾得した資料は、はじめに述べたような収集の経過から、ほとんどが豊平小学校やその周辺における落鳥である。

1989年以降に茅野市内で拾得し剥製にした資料は43点であるが、このうち尖石考古館と隣接する茅野市青少年自然の森(1991年開設)における落鳥が21点と約半数を占めている。また43点中、幼鳥や完全な成鳥羽に換羽していない若い個体は14点あった。一般に、自然界における年齢構成は、年齢が若いほど個体数が多いと思われる。だが小型の鳥類の成鳥以外の羽毛については、数種を除いて、日本の一般的な図鑑にはほとんど記述がない。このような若い個体の資料は貴重である。

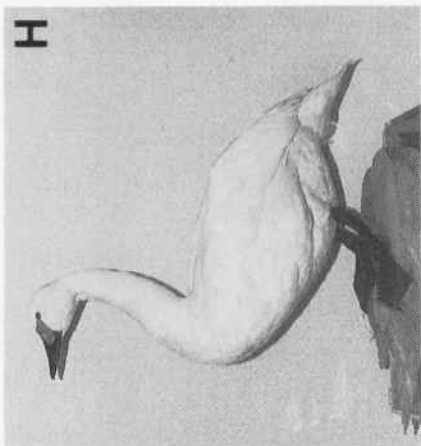
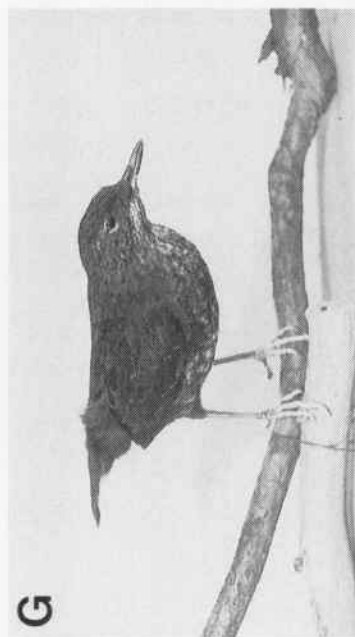
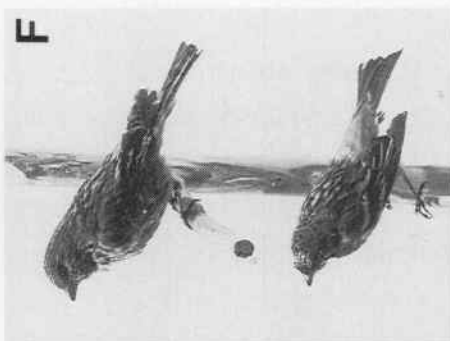
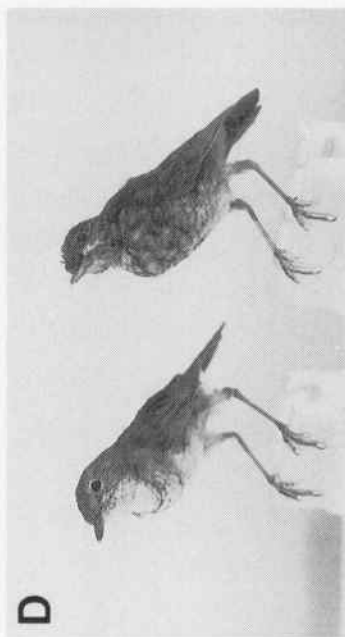
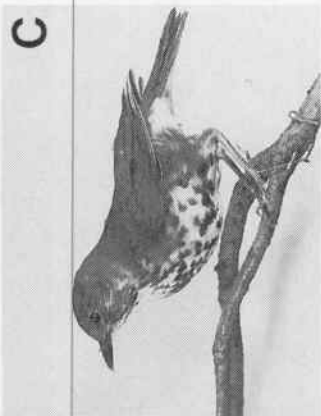
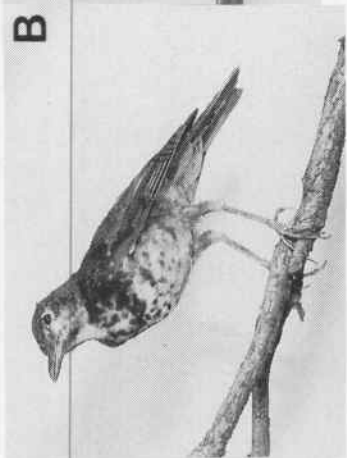
しかし剥製にした資料では、性別や年齢の決定のために必要な、羽毛の色や形等の詳細な観察が十分に行えない場合もある。外部で拾得された資料はできるだけ早急に入手し、各部位の計測のみならず、そのような詳細な観察を行ったうえで冷凍保管し処理するよう心がけたい。

おわりに、資料を寄贈して下さいの方々、本目録の作成にあたってご協力いただいた野沢進之輔氏、杉山直氏(日本野鳥の会 諏訪支部)に深く感謝申し上げる。

#### 5. 参考文献

- 原田雅之ほか 1994. 大型ツグミをじっくり見る. BIRDER 87 : 18-33. 文一総合出版.
- Svensson, L. 1984. Identification Guide to European Passerines (Third, revised and enlarged edition). British Trust for Ornithology, England.
- 山階鳥類研究所標識研究室 編 1983. カシラダカ. 鳥類標識マニュアル(識別編) 1982年度版 : 19-21. 山階鳥類研究所.
- 1986. モズ. 鳥類標識マニュアル(識別編 3) 1985年度版 : 1-4. 山階鳥類研究所.
- 1988. ホオジロ. 鳥類標識マニュアル(識別編 4) 1987年度版 : 1-4. 山階鳥類研究所.
- 1990. アオジ. 鳥類標識マニュアル(識別編 6) 1989年度版 : 5-8. 山階鳥類研究所.

写真 : A. クロツグミ ♂ (左) 第1回冬羽, (右) 第1回夏羽. B. クロツグミ ♀ 幼鳥.  
C. クロツグミ ♀ 成鳥. D. コルリ (左) ♀ 第1回冬羽, (右) 幼鳥. E. シジュウカラ  
(左) 幼鳥, (右) ♂ 成鳥. F. オオマシコ (上) ♀, (下) ♂. G. カワガラス 幼鳥.  
H. コハクチョウ ♀ 成鳥. I. キレンジャク ♂ 成鳥.





# ヤマユガ飼育日誌

松 沢 か ね\*

## 1. はじめに

茅野市の永明寺はここ数年市民の憩の場「永明寺山公園」として、木を切り山を削り、道路や駐車場、それに伴う施設などに開発された。

この永明寺山の山裾をとり巻くように昔、用水路が開発されていた。昭和48年に、この用水路が永明寺山遊歩道（城山から上原まで3800m）に整備された。この道は標高820m～830m、等高線に沿った道幅1.5mの平坦な道である。道より高い所はアカマツ、カラマツの人工林と、コナラ、サクラ、クリなど雑木林が広がり、秋には松茸山となり入山禁止になる。道より下方はリンゴ、モモなどの果樹園や畑、土手、藪がある。この山は自然に恵まれ、小動物や昆虫など多種類の生き物が生息している。そこでコナラやクヌギ、クリの葉を食べ、緑の繭を作るヤマユガ（山繭）とウスタビガの生活史を中心に調査を行った。永明寺山にて卵を採取したヤマユガを飼育したので、その結果を報告する。

### 〈天蚕とは〉

天蚕は日本在来の野蚕（別名山繭蛾）で、鱗翅目、ヤマユガ科に属し、全国の山地に野生する大型の絹糸昆虫である。一化性といって1年に1回の発生で、卵—幼虫—蛹—成虫（蛾）の完全変態を行う。卵は2.8mm位の饅頭形で、産卵直後から胚子の発育を開始し、約8日から10日で卵内での幼虫化は進み、そのまま翌春まで卵態休眠する。卵内の幼虫は冬の寒さがないと孵化しないという。幼虫は自然条件で、5月上旬から中旬に孵化する。4眠5令を経過し、幼虫の体色は1令から5令まで木の葉の色に似た緑色で、4令、5令幼虫は特に美しい緑色をしている。食餌はクヌギ、ナラ、カシワなどのブナ科の植物の葉を食べる。よく移動し、腹脚の把握力が強く、昼間は枝の下側にぶらさがっていることが多い。水をよく飲む習性をもっている。約50日で営繭する。繭は食樹の2～3枚の葉を綴り合わせて被い、緑色の楕円形の繭を作る。この緑色の繭から天然絹糸がとれる。営繭開始後、8日で蛹化する。蛹から1ヶ月、遅いもので3ヶ月で羽化する（蛾になる）。蛾（成虫）は翅開張15～18cmの大型で、翅色は橙黄色、灰褐色、赤褐色など変異に富み、前後翅とも翅の中央、横脈に各1個の透明な眼状紋がある。蛾は交尾して産卵した後、へい死する。

### 〈蚕と天蚕〉

糸を取ることでできる繭は2種類あり、蚕と天蚕である。

蚕はカイコガ科に属し、天蚕はヤマユガ科に属する。両者は生態も繭の形状もちがう。蚕は人間が飼う家蚕で桑の葉を食べて育ち、蚕の作る繭から絹糸がとれる。天蚕は日本

\* 茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員補

各地に野生し、クヌギ、ナラ、カシワなどの葉を食べる。その緑色の繭からとれる天然絹糸は絹糸中最も上品とされ、その糸は極めて強いことから箏、三弦の糸に利用されたといわれている。現在でも、繊維のダイヤモンドといわれ、光沢、優美、軽くて柔らかく、染料に染めにくいので、天然絹そのものの美しさが重用され、紬、帯、半衿、ネクタイ等に加工されている。

#### 〈ヤママユガ科の仲間〉

ウスタビガの繭は形がかます 吠 という袋を吊り下げたようなものなので、ツリカマス、ヤマカマスとも呼ばれている。緑色の美しい繭である。

その他に、クスサン、ヒメヤママユ、オオミズアオ、シンジュサンなどがある。

#### 〈天蚕飼育の歴史〉

穂高町では、天明年間(1781年)、有明村で野生の天蚕を採取し、飼育が始められた。嘉永年間には製糸が始められた。安政年間、飼育林が設置され増産を目的に飼育される。明治30年頃が全盛期。昭和18年第二次大戦で生産中止。その後、僅が飼育されていたが、昭和40年、県の委託を受けて一般農家が飼育を開始現在に至っている。(穂高町天蚕センター 中島福雄氏 談,1992.)

茅野市史所収の古文書、安政5年(1858)「矢ヶ崎村村定」の中に「山繭飼い候者、人の林よりナラの枝少したりとも取り候儀相成ず候」とあり、ナラの葉で山繭を飼育していたことがわかるが、それ以外資料が見当たらない。茅野市地域は養蚕が盛んに行われていて、古老の話では、山で繭を見つけたり、灯火に飛来するヤママユガはよく見かけるが、飼育したことはないという。

## 2. ヤママユガの飼育

#### 〈飼育の動機〉

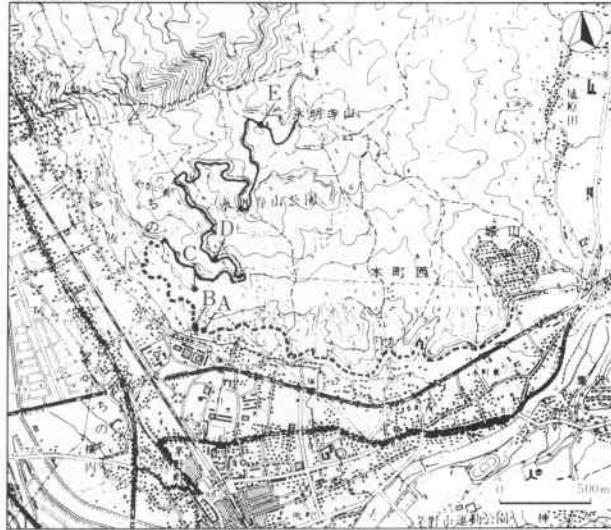
永明寺山遊歩道を散策中に、緑色の美しい繭(羽化後のてがら 出殻繭)を見つけた。その周辺の木々の枝にも数個の繭がぶらさがっていた。夏から秋にかけて外燈に飛来してくる大きなヤママユガをよく見かけたが、それらが羽化した繭だとわかり、身近にヤママユガの存在を知った。この出殻繭を採取して、繭を煮て糸を引き、機に織りたいと思った。足しげく、出殻繭を採取している時、偶然コナラの木の枝でヤママユガの卵を発見した。そこでコナラやクリなどの雑木林でヤママユガの卵を採取して、自然に近い状態で飼育することを試みた。

#### 〈卵の採取〉

卵の採取は、茅野市永明寺山の5地点において、1992年10月から1993年4月にかけて行った。採取地を図表1に、採取された卵の数を図表2に示す。卵は直径2.8mm、饅頭形である(写真A)。なお、採取時にヤママユガの卵と思われた中に、ウスタビガの卵が混じていたことが、飼育中2令幼虫の時点で明らかとなった。両者の卵は、同じコナラの木に産卵されていた。

図表 1. 卵の採取地

..... 遊歩道  
 ——— 車道



図表 2. 永明寺山で採取したヤママユガとウスタビガの卵数

種名 \ 地点	A	B	C	D	E	計
ヤママユガ	3	7	9	8	9	43
ウスタビガ	—	2	—	3	—	5

(1992年10月～1993年4月 合計数)

〈飼育方法〉

用意するもの

- ケース、蓋付きのもの（昆虫用の飼育ケースがよい）
- 餌の木の枝をさしておく瓶、タッパー、生け花用のスポンジなど
- 脱脂綿、ガーゼに水を含ませたもの（幼虫の水飲み場）
- 霧吹
- 幼虫の餌になる葉のついた木の枝（コナラ、クヌギ、カシワ）

飼育方法

1. 瓶に水を入れ、餌の木の枝をさす。幼虫は水を好み、水中に入って溺れないように、木の枝を瓶などにさした後、枝の周囲を綿やガーゼで詰めておく必要がある。
2. ケースに入れる。
3. 脱脂綿に水を含ませ、小皿に入れてケースの隅に置く。
4. 毎朝、朝露程度の水をかけてやる。
5. 2日に一度、餌の木を取り替える。
6. 幼虫を移動させるには人が手でつかまずに、枝ごと動かす（人間の持っている菌や、傷を与えないように）。
7. 適度に日光に当てる。
8. 幼虫は活発に移動するので、ケースは必ず蓋をする（但し空気の流通を妨げぬように）。

〈飼育日誌〉

3月20日 卵（卵態休眠）

昨秋から、コナラやクリの雑木林で採取したヤママユガの卵を自宅に持ち帰り、涼しい所に保管した。冬の寒さを過ごした卵はどうなっているかのぞいてみた。明るい所に出したとき、卵がピシピシ跳ねる音がした。確かに卵が動いた。卵の中はどのようなになっているのか、カミソリで卵を傷つけないように、殻を剥がしてみた。卵の中は、茶色い頭と、白くて長い生毛に被われた幼虫が丸くなっていた。尾尻をビクビク動かしていた。春を待つばかりであった。

5月10日 孵化（ふ化）

孵化は早朝に始まる。幼虫は卵の横の壁を食い破り、1mmほどの穴を開け、茶色の頭を出し始める。頭の付根の白い毛を左右に振り、少しずつ長い生毛に被われた毛虫が姿を表す。体長3mm、体の割に頭が大きく3頭身のような。茶色の大きな頭に、萌黄色の体に3本の黒い筋が走り、全身に長い毛が生えている。孵化したばかりの幼虫は動き回っていたが、やがて新芽に近より針で穴を明けたように葉を食べた。水も飲んでいて。半日過ぎ、けしの種子ほどの糞をした。

5月18日 1回目の脱皮（2令幼虫）

孵化して8日が過ぎ、1令幼虫も体長1cm。盛んに動き回り、餌の葉と同じ体色をしていて見つけるのに苦労する。水を好んで飲む。1眠に入り葉を食べなくなった。病気なのかと心配しているうちに、1回目の脱皮が始まった。全身が黒い毛に被われているので、脱皮する様子のはっきりわからないうちに、毛虫から全身がつやつやした黄緑色の幼虫に変身した。節の盛り上がりに体毛が星のように生えている。食欲もでてきて葉の食べ方も主脈に沿って食べるようになった。

5月25日 2回目の脱皮（3令幼虫）

1回目の脱皮から一週間。黄緑色の幼虫がうす緑色の体色に変わり、ピロードのような緑色の美しい幼虫になる。体長3cm。ひとまわり太くなり、頭部近くの脇、左右対称に銀色の輝点ができた。警戒心が強く、身を守る動作をする。

6月2日 3回目の脱皮（4令幼虫）

3眠が終り、餌を食べない分だけ体が小さくなった。体全体が皺々で、頭部も灰色がかり、全体がさえない色になった。体全体をビクビクさせた。尾脚で枝につかまり、尾脚から気合を入れると、1節毎に波を打たせたようにふくらんで頭部まで達する。この動作を繰り返していた。1節がふくらんだ状態になると、皮の表面が耐えきれずに皮が破れる。1節毎に皮が剥がれ、胸部から尾脚まで2時間を要す。感動的なシーンであった。

6月14日 4回目の脱皮（5令幼虫）

休眠に入ると2日ほど葉を食べずじっとして動かない。体の色は灰色のさえない色にな

り、薄皮が体から浮いて皺々になっている。脱皮の体勢作りである。じっと動かなかった幼虫が体をくねらせ始める。強い尾脚でしっかり枝につかまり、尾の先から一呼吸するような格好をすると、一節ごとに波を打つように盛り上がり頭部まで達する。この動作を何回も繰り返し、やがて頭と体の境目の薄皮が破れる。と同時に胸部の脇皮も破れる。6本の胸脚が次々と皮が剥れ白い脚が出てくる。この時、頭の古い皮が仮面のように剥がれ、床にポトリと落ちる。体をよじったり、伸ばしたり、縮めたり、大きな波を打たせながら古い皮を後へと押し上げていく。吸盤のようにになっている腹脚8本も次々と皮が剥がれ、最後に前足で枝につかまり、尾脚を折り曲げ、力一杯蹴り上げ伸ばすと古い皮がポロリと剥がれ、脱皮完了である。2時間もの長い時間をかけて、お産でもしたように脱皮殻と並んで静かに体を休めている。脱皮が終わるとふた周り大きくみずみずしい体になり、ヒスイのような美しい緑色の虫になる。

6月29日 繭作り

緑色の虫、終令幼虫になると背面全体が白くなり、盛んに動き回る。そのうち2日間、葉を食わずじっとしている。それまで小豆大の硬い糞であったのが、べとっとした柔らかい糞に変わり、やがて尾脚を上げてコーヒーゼリーのような水を一気に排泄した。体の余分な水分を出したのである。大きかった虫がふた囲り小さくなり、半日程じっとしていたが繭を作る枝を探し、位置をきめると、前足で1枚葉を引き寄せた。いよいよ繭作りである。3枚の葉を強い糸を吐き固定させた。他に4枚、5枚の葉と固定するものもあれば、1枚しか使わないものもある(図表3)。自分の入る容積を確保するために糸を張っている。やがてそれを中断して移動すると、繭をぶら下げる枝に何回も緑色の糸を巻きつけ、枝に固定させている。繭柄けんべいを作り、雨や風で葉が落ちて繭は枝から落ちないようにするのである。繭柄を作り終わると先程の薄く糸を張った繭の中に入り、口から糸を吐くと前足でその糸を受けとめ繭の層を均一に張り重ねていく。3時間もすると楕円形の繭になった。繭ができ上がった頃、繭全体がびしょり濡れた。天蚕特有のシュウ酸カルシウムを排泄したのである。濡れた繭は一段と美しい緑色になった。この繭が乾いてくると繭の表面に白い粉ができていく。これは糸を固着させ繭に強度を保たせ、外敵から身を守るためである。こうして幼虫は前蛹期に入る。

図表3. ヤママユガの営繭時の集葉数

葉の数	1	2	3	4	5	計
個体数	1	2	17	9	1	30
全個体数に占める割合(%)	3	7	57	30	3	100

### 7月7日 蛹化

前蛹期には幼虫は静止しているようである。約1週間の前蛹期間を過ごしたのち、蛹化が始まる。外から見ていると繭がピクピク盛んに動く。繭の中で幼虫が蛹になるため脱皮している。狭い繭の中でどのように脱皮が行われているのか、蛹から成虫になるためにどんな変化をしているのか、観察はできない。文献によると蛹から羽化が始まるまでの一般的な変化は、

- ① 蛹全体が白くなる（翅形成）
- ② 目が黒くなる（目形成）
- ③ 羽に色素が現れる（色素沈着）
- ④ クチクラ層と成虫体が離れる（脱離）
- ⑤ 羽化 と5段階にわかれる（長野県自然観察事典 動物編より）。

### 8月3日 羽化

羽化は陽が沈み暗くなる頃開始する。がさごそ繭が動く。繭の上部が湿り気を帯びてきた。湿り気の部分が瘤のように盛り上がり、繭の繊維をほぐすようにして小さな穴があいた。いきなり触角が穴の外に出た。次に大きな黒い眼のある頭部がでて、胸部、腹部と一気にぽこっと体全体が繭の外に出た。太い足で繭にしがみついている。この時、ミルクココア状の液体が同時に流れ出て、繭の下にもしたたり落ちた。蛹の殻の中にもこの液が残っていた。ピロードのような茶色の毛に覆われた体は、腹が異常に大きく折りたたまれた羽がちょこんと背中についていて不格好な姿である。羽化したばかりの蛾は大役を果たしたかのように静かに休んでいる。やがて折りたたまれた羽が、ゆっくり、ゆっくり、静かに展がっていく。羽脈に点滴でもしているように少しずつ羽がのびていく。2時間程ですっかり立派な4枚の羽が展開して、蛾になった。ヤマユガ成虫の誕生である。

※成虫の羽化は繭の繊維を食い破るのではなく、湿らせてほぐした状態なので、出殻繭は糸を引くとき普通の繭と同じように糸を取ることができる。これが蚕と異なる重要な点である。

### 8月14日 交尾と産卵

先に羽化したオスの蛾は4枚の羽がのびきって休んでいたが、近くの枝に移動した。続いて羽化したメスの蛾は羽が展がっていく間も、しきりに羽をバタバタさせている。キーキーというような小さな鋭い音を発している。オスも羽をふるわせたり、展げたり、バタつかせる。互いに見合いの仕ぐさをする。近づいたり、離れたり時間だけは過ぎたが、交尾行動は確認できなかった。翌朝、メスのいる枝に15粒の卵が産んであった。夜中のうちに交尾、産卵を行ったのであろう。オスは窓きわのカーテンに羽を展げていた。メスを水と共に竹カゴに入れた。約10日の間に180粒の卵を産みつけてあった。羽は破れ12日間の命であった。オスは10日で死んだ。

一晩で交尾、産卵した蛾は15組のペアの中で1組であった。他はカゴに入れて、2～3日で交尾を完了し、メスは産卵をはじめ。メスは10～15日間の死ぬ寸前まで卵を産み続

けていた（図表4）。

図表4. 飼育したヤママユガの雌の産卵数

個体 No.	1	2	3	4	5	6	7
卵の数	186	154	180	210	248	212	242
	8	9	10	11	12	平均	
	220	194	224	194	186	206	

### 3. まとめ

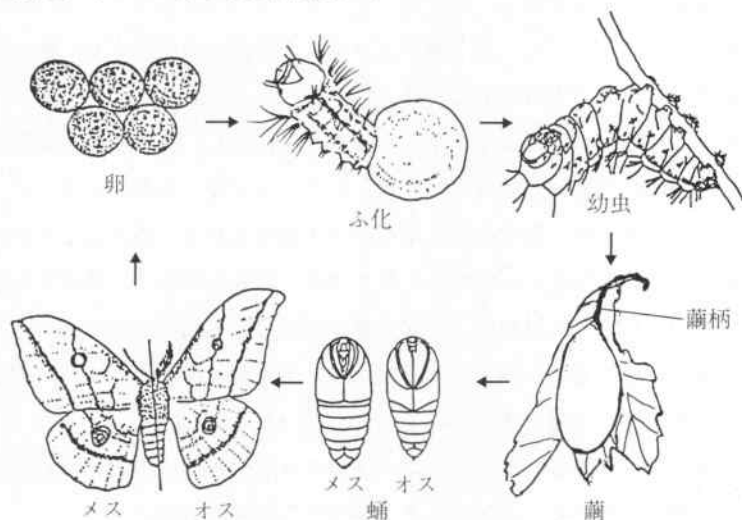
観察したヤママユガの生活史と一生を図表5～7に示す。また、同時に飼育したウスタビガの卵から繭までを、図表8に示す。

図表5. ヤママユガの生活史

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
				◎	◎	◎	◎				
						—	—	—	—		
						+	+	+	+		

○ 卵    ◎ 幼虫    — 蛹    + 成虫

図表6. ヤママユガの卵から成虫まで





図表7. ヤママユガの一生

卵	ふ化	幼虫					営 繭	蛹	羽化	成虫 (蛾)	へい 死
	5月10日	1令	2令	3令	4令	5令	6月29日		8月3日	交尾 産卵	8月14日
		一眠	二眠	三眠	四眠						
		5月18日脱皮	5月25日脱皮	6月2日脱皮	6月14日脱皮						
260日	8日	7日	8日	12日	15日	34日	11日				

(1992年10月～1993年9月)

ヤマユガは大型昆虫であるが、木の葉を食べるだけで、他の昆虫を捕食することはない。天敵から身を守るために周囲の色彩に似た体色を持たなければ生きられない。環境に適応し、いかに子孫を残していくか、飼育をして、天蚕に学ぶことが多くあった。

卵…1匹の蛾が約200粒前後の卵を産む。野生の蛾は1ヶ所に全部卵を産み付けるのではなく、3粒、5粒、8粒というように少しずつ分散して産み付けている。母蛾は産み付ける木の肌に似た粘着液で、卵を保護し、木肌に固着させ、長い間、風雨や寒さに耐えられるようにしてある。秋から翌春まで約8～9ヶ月間、卵態休眠する。

幼虫…木の芽が出始めた頃に孵化、芽木と同じ色をしており木の葉と同様に幼虫の体色も変わっていく。野生の幼虫は、夜露を飲み、風のない時に葉を食べ、昼間は枝や葉の下側にぶらさがり、その姿は葉と間違いやすい。春から夏に、野外でコナラなどの木に幼虫を探すことは難しい。筆者は、1匹見つけただけである。

また、ヤマユガの終令幼虫は、コナラの葉を食べ残して、葉柄部で食い切り落下させる習性がある。永明寺山の遊歩道上で観察した事例を図表10に示す。

繭…飼葉を集めた中で営繭し、葉と同じ色でカモフラージュしている。蛹を保護するため緑色の繭を作り、その上にシュウ酸カルシウムを排泄して壁を作り、繭の中で蛹が羽化する準備が容易にできるようにしている。

羽化…夕方、小鳥がねぐらにつく頃、すばやく羽化して、夜の明ける前に成虫(蛾)になっている。外燈に飛来した蛾は羽だけ残してカラスに食いちぎられている。







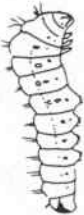

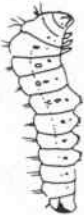

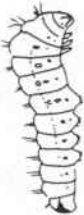

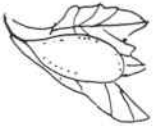

蛾…4枚の羽に各1個の眼状紋が外敵をおどす役目をしているかのようである。羽は展げると枯葉のようにも見える。飼育したヤマユガの成虫の色は、図表9の通りであった。

ヤマユガの生息している永明山寺遊歩道の附近は、果樹園が近くにあり、その周辺は消毒薬で汚染されている。しかし、消毒薬に対しても耐性を獲得して、可能な限り子孫を後世に残し、その生息の場を守っているのではないだろうか。

山繭の採取は秋から翌春にかけて、コナラやクリの雑木林で出殻繭が見つければ、その周辺を探すと卵を見付けることができる。孵化する確率は大きい。








図表8. ヤママユガとウスタビガの変態の様子 (卵から繭まで)

		ヤママユガ	ウスタビガ
卵			
1 令幼虫			4月22日 ふ化 卵を屋内においたので、野外よりも早くふ化する。コナラはまだ葉が開いてないので、その芽や、リンゴ、カシワ餅の葉などを食べる。
2 令幼虫			5月6日 脱皮 コナラの芽をよく食べる。 2 令幼虫になると体の気門線上が真黒な太い線になり、体が黄色に黒い線が入る。
3 令幼虫			5月13日 脱皮 3 令幼虫になると黒い線がなくなり、青く光る斑が気門線に並ぶ。
4 令幼虫			5月20日 脱皮 気門線が角ばったようになり、背面はきれいな緑色であるが、腹部は濃い緑色になる。
5 令幼虫			5月31日 脱皮 体長6cm。コナラの葉をもりもり食べる。体色は4 令幼虫と同じ。
繭			6月19日 繭作り 終令幼虫は、背面が白くなり、盛んに動き回る。まず木の枝から葉柄に沿って緑色の長い繭柄を作る。その先端に捕虫網形の袋を、粗く糸を張って作る。そして、口の部分から順に下へ、上下に糸を張って行く。時々繭から顔を出し様子伺いながら繰返し糸を張り、カマス形の繭に仕上げる。鮮やかな緑色の繭である。

図表9. 飼育したヤマユガの成虫の羽の色

色	黄褐色	灰褐色	茶褐色	合計
個体数	20	2	8	30

図表10. 永明寺山遊歩道に見られたヤマユガの終令幼虫によるコナラの食痕

①			5 cm	②
				
葉の3分の2以上を食べ残す例	葉の約2分の1を食べ残す例	葉の3分の1以下を食べ残す例	主葉脈に沿って片方を食べ残している例	
26%	50%	9%	14%	
85%			③	
				
			葉の両側縁から食べ葉の先端部を落下させている	
			1%	

- ①…葉の先端から食べ始め、途中で食べ残して葉柄部を食い切り落下させたもの。  
 ②…葉の主脈に沿って片側を食べ他方を残し、葉柄部を食い切り落下させたもの。  
 ③…葉の基部の両側を食べ、先端部を残し、食べた部分の葉軸を食い切り落下させたもの。

(付) 永明寺山で採取した出殻繭の種類と数

種 類	ヤマユガ	ウスタビガ
穴のあいた繭の数	5	4
正常な状態の繭の数	40	10
合 計	45	14

(1993年11月～1994年4月)

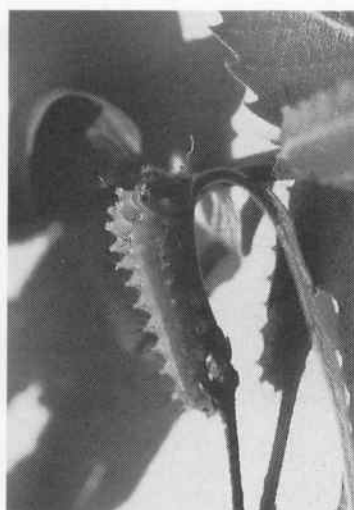
写真A～L. ヤママユガの成長過程



A. 1993年4月18日  
永明寺山C地点で採取した  
ヤマユガの卵



B. 5月17日  
1令幼虫  
孵化後1週間



C. 5月20日  
2令幼虫



D. 5月31日  
3令幼虫



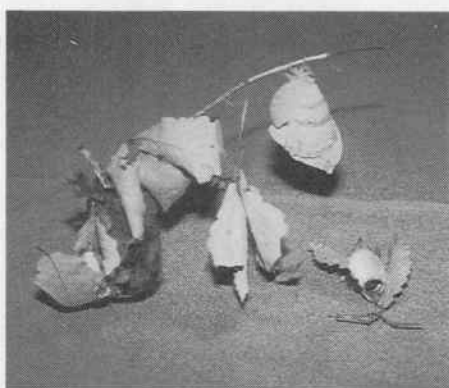
E. 6月20日  
4回目の脱皮殻



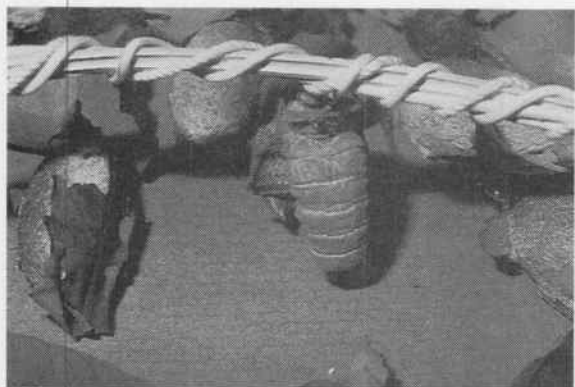
F. 6月20日  
終令幼虫  
全長約8 cm



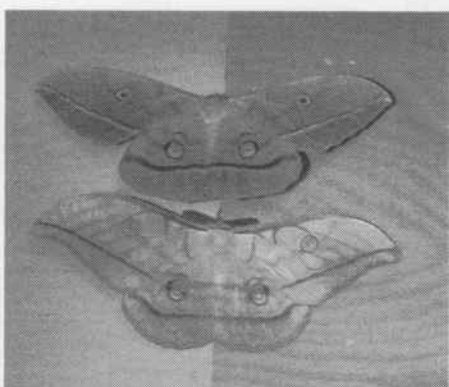
G. 7月1日  
繭



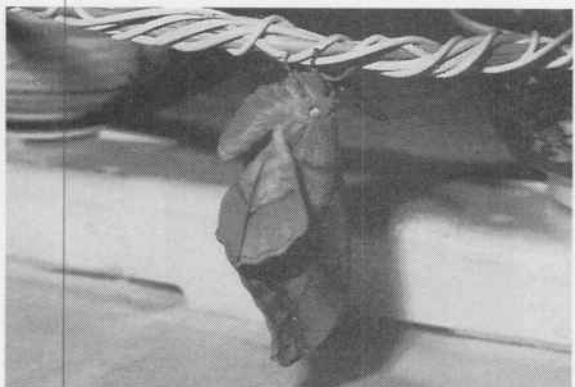
J. 8月3日  
19時30分頃 4枚の羽が  
展開する



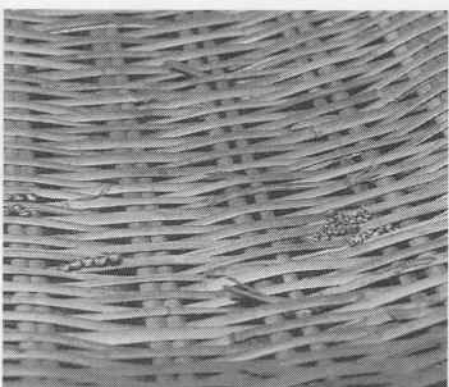
H. 8月3日  
17時30分頃 羽化開始



K. 8月6日  
成虫(蛾)上-メス 下-オス



I. 8月3日  
18時30分頃 羽化終了



L. 8月14日  
カゴに産みつけられた卵  
左-ヤマユガ  
右-クスサン

#### 4. 引用・参考文献

- 穂高北小学校郷土研究会 (1986), 『みどり色のまゆーぼくたちが調べたヤマコの一生ー』  
63pp., さ・え・ら書房.
- 服部伊楚子 (1987), ヤママユガ科, 『原色日本蛾類幼虫図鑑 (上)』, 32-38P., 保育社.
- 茅野市史編さん室 (1987), 養蚕, 近世 第6章 農業と水利, 『茅野市史 中巻』, 673-  
675P., 茅野市.
- 小林 尚 (1991), ヤママユガ, 『長野県自然観察事典』, 259-236P., 長野県自然教育研究会.

The following information is provided for your reference:

1. The total number of items is 100.

2. The number of items that are currently available is 75.

3. The number of items that are not available is 25.

4. The percentage of items that are available is 75%.

5. The percentage of items that are not available is 25%.

# 八ヶ岳山麓に分布するシラビソ・コメツガ林 の更新の一例 (その1)

大谷 勝己\*・永富直子\*\*

## 1. はじめに

八ヶ岳には、シラビソを中心とする亜高山帯針葉樹林が広く分布している。かつてから、縞枯れ現象を中心としたシラビソ・オオシラビソ林の更新パターンが詳しく研究されている(甲山,1984 木村,1977他)。

しかし、八ヶ岳山麓に分布しているサワラ林やウラジロモミ林と境界を接するような、標高の低い場所(標高1,600m付近)に分布する亜高山性針葉樹林の更新パターンについての研究は少ない。また、サワラ林やウラジロモミ林自身の動態についても、研究は少ないだけでなく、こういった森林は伐採や開発のために失われつつある。特にウラジロモミ林においては、現存する大面積なものは八ヶ岳の御柱山に分布するのみで、非常に少ない。

本報では、サワラやウラジロモミを含むシラビソ・コメツガを主体とした林分に調査区をおき、その更新パターンの例を報告する。

## 2. 調査地と調査方法

調査地は、北八ヶ岳横岳南西側・蓼科山南側の山麓の標高約1640mに位置し、茅野市北山蓼科地区の白樺湖・蓼科有料道路沿いにある(図-1)。滝ノ湯川と一つ尾根をはさんだ狭い谷で、滝ノ湯川の支流である小さい沢が調査地を南西に流れる。

この周辺の植生は、谷部はシラビソ、コメツガ、サワラなどが主体の針葉樹林でダケカンバやミズナラが混じることが多い。また尾根部はミズナラ、ダケカンバ、ヒロハツリバナなどの落葉広葉樹の二次林である。この二次林は、シラビソが散在し林床にはササが多い。一部はカラマツの植林地となっている(写真-1)。

有料道路脇の谷頭部に18m×46mの長方形の調査区を設けた。調査区内のほぼ南側半分は平坦であり、北側は斜面で斜度20~25度である。基質は新期八ヶ岳火山の溶岩である安山岩の岩石地で、土壌は非常に薄く、コケ類に覆われている(写真-2)。調査区に接した台地状の南側斜面は、カラマツの植林で林床はササに覆われている。

調査期間は1993年9月~11月で、調査区内の樹高1.2m以上の木本の全個体について、樹種、胸高直径、樹高を記録した。さらに各個体の位置を測量し、樹高が林冠部に達している個体については樹冠投影図を作成した。

\* 茅野市役所工業振興課    \*\* 茅野市八ヶ岳総合博物館

図-1. 調査地

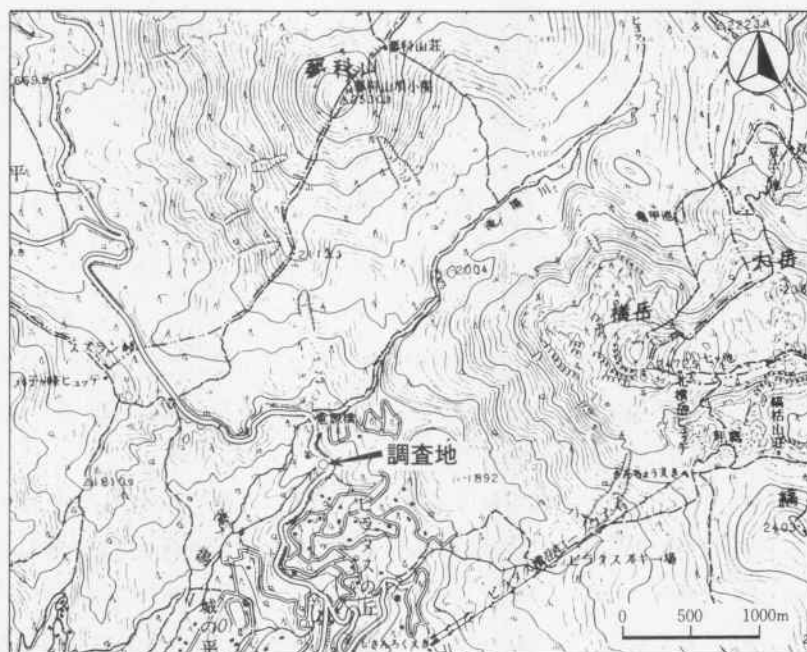


写真-1.



写真-2.

表-1. 調査区の木本種組成 (樹高1.2m 以上)

和名	学名	略号
ウラジロモミ	<i>Abies homolepis</i>	Ah
シラビソ	<i>Abies veitchii</i>	Av
コメツガ	<i>Tsuga diversifolia</i>	Td
サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>	Cp
ノリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i>	Hp
サクラ属の1種	<i>Prunus sp.</i>	P
エゾノコリンゴ	<i>Malus baccata var. mandshurica</i>	Mb
ナナカマド	<i>Sorbus commixta</i>	Sc
ヒロハツリバナ	<i>Euonymus macropterus</i>	Em
オガラバナ	<i>Acer caudatum subsp. ukurunduense</i>	Ac
コミネカエデ	<i>Acer micranthum</i>	Am
コシアブラ	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i>	As
コヨウラクツツジ	<i>Menziesia petandra</i>	Mp

\*カマツは樹冠だけが調査区に入っていたので上記リストからははずした



### 3. 結果

#### 高木性樹種の種組成と量的構成

この調査区の樹高1.2m以上の木本種は13種で、その組成は表-1に示した。胸高断面積合計(図-2)から見ると、針葉樹のシラビソが59%と最も多く、次いでコメツガ24%、サワラ5%と続く。落葉広葉樹はオガラバナが2%程度であるだけで、他種はほとんどない。ウラジロモミは1本だけであった。

#### 主要構成種の樹高階・胸高直径階分布

全個体の樹高階分布は図-3に示した。樹高階分布はほぼ逆J字型となるが、12.2mから21.2mにもピークがある。また、主要樹種の種ごとの樹高階分布を図-4に、主要樹種の樹高と胸高直径の関係を図-5にそれぞれ示した。主要樹種4種の特徴を、以下に記す。

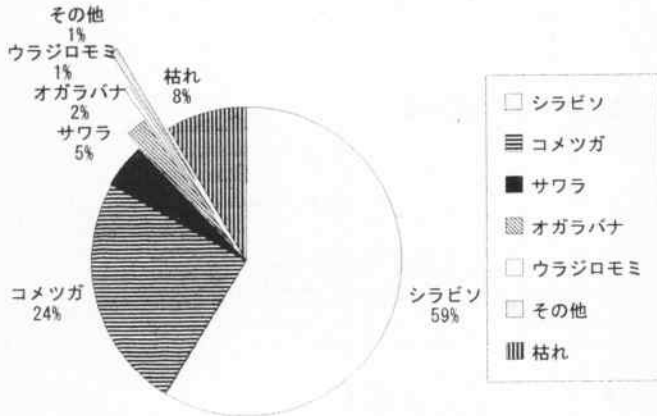


図-2. 主要樹種の胸高断面積の割合

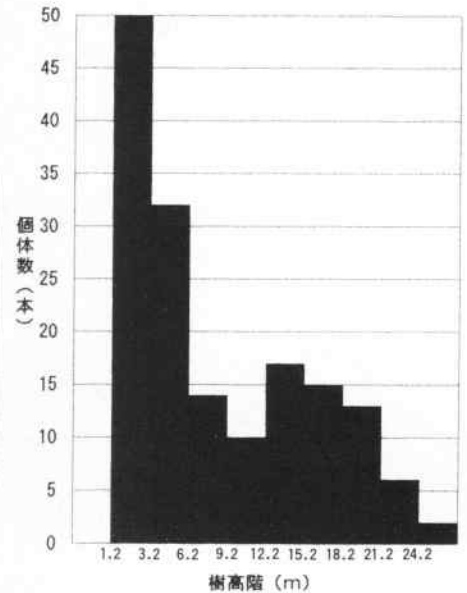


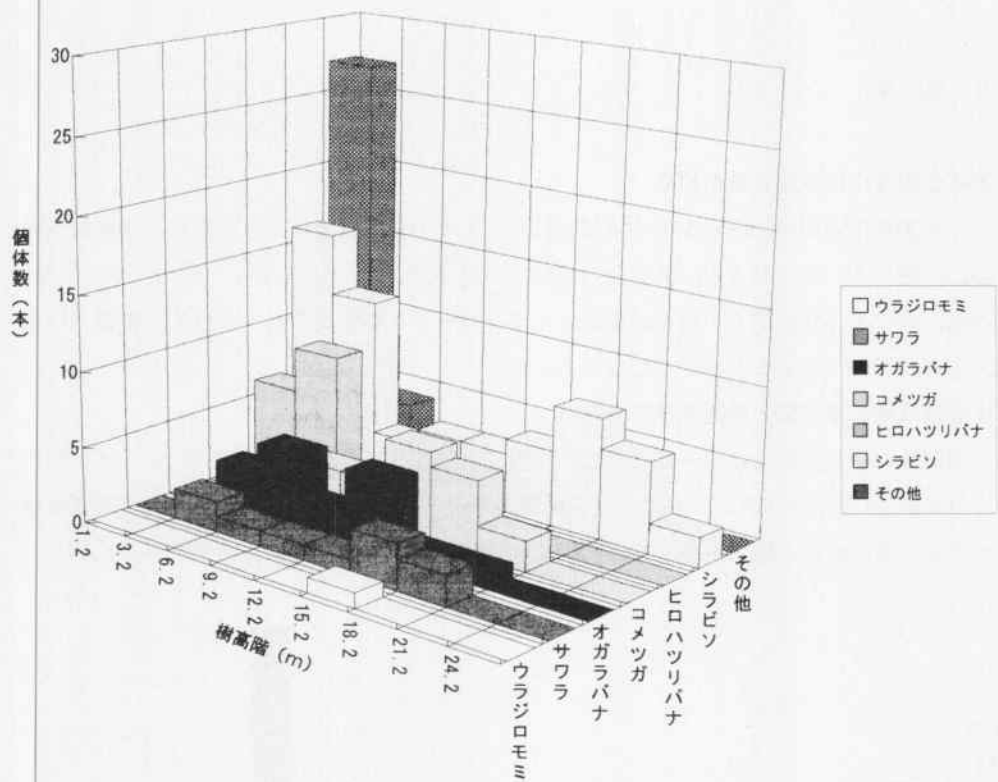
図-3. 樹高階分布

#### ・シラビソ

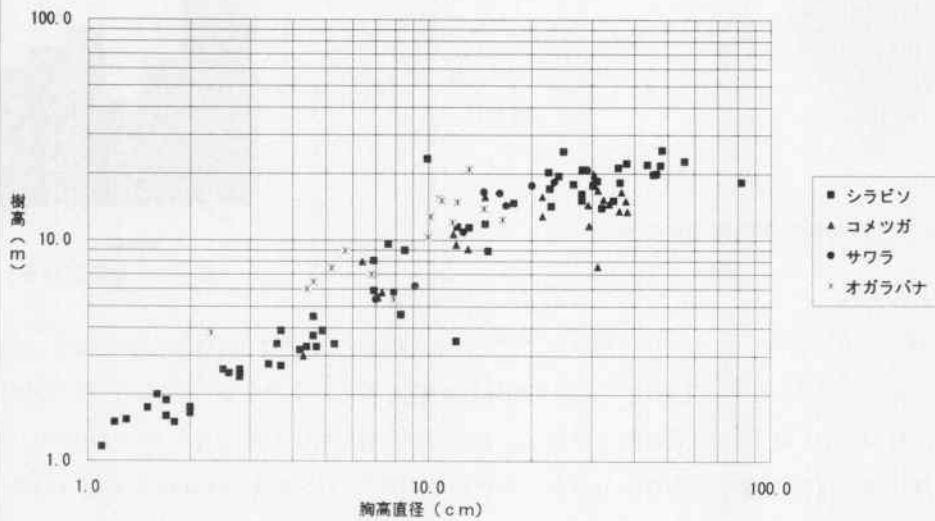
図-5のとおり、シラビソの個体サイズ分布は連続している。樹高階分布は、図-4のように最も小さい1.2m以上3.2m未満の個体数が最も多く、樹高が高くなるにつれて個体数は減少していく傾向が見られる一方で、18.2mから21.2mにも小さなピークがある。樹高直径階もほぼ同様で、小さいものから大きいものまでほぼ連続的な分布を示している。

#### ・コメツガ

図-5のとおりコメツガは、樹高12.2mから15.2mの範囲に個体数が多い。胸高階分布も樹高階分布と同様に偏った分布をしている。



図一4. 主要樹種の樹高階分布



図一5. 主要樹種の樹高と胸高直径の関係

・サワラ

図-4からは、樹高の低い個体から高い個体まで一様に分布している様子がわかる。しかしながら分布の連続性を推察するには個体数が少ない。また、図-5からは、サワラは、樹高が低く径の小さい個体がない点が、コメツガによく似ていることがわかる。

・オガラバナ

図-4のとおり、樹高9.2m以上に多くの個体が分布しているが、20mを越えるものは1本だけである。

### 樹冠投影図と種の分布状況

樹冠投影図は図-6に示した。それぞれの樹木の位置図は図-7に示した。

調査区の林冠のほとんどをシラビソが占めており、コメツガがこれに続く。コメツガの樹冠はシラビソに上部を占められていることが多い。

サワラの分布は局所的で、その林冠部の面積はコメツガより小さい。

調査区中央の沢の部分には、オガラバナ、ナナカマドが樹冠を広げている。また、この沢へ向かって周辺の大径木のコメツガの枝もせり出している。なお、これらの樹冠下にはシラビソが生育していることが多い。

さらに、コメツガは、地表面が小山状になった場所（マウンド）に生育していることが多く観察された。このような場所には、シラビソの稚樹も多い。

## 4. 考 察

まず、全体の樹高階分布において、最も高いクラスでなく12.2mから21.2mの中庸な高さにピークがあることから、以前に攪乱を受け、現在再生中の林分を調査区とした可能性は高い。しかし、最大樹高は24mを越えていることから成熟した林分であることも言える。

樹冠投影図の結果から本調査地は、シラビソを中心とした林分、コメツガを中心とした林分、サワラを中心とした林分、オガラバナ・ナナカマドの落葉広葉樹を中心とした林分の4つの林分に大きく分けられる。この4つの林分は、それぞれ更新パターンの一断面を示していると考えられる。

このうちシラビソを主体とした林分は、樹高も高く、極相と考えられる。この林分に小規模の攪乱が起こった場合は、個体のサイズが連続しているシラビソが回復する可能性が最も高いと思われる。また、シラビソの樹冠下に生育することの多いコメツガが、シラビソに代わって林冠を形成していくことが予想できる。コメツガがシラビソより陰樹的な性格を持っていることはすでに報告されており（中村他,1982）、今回もこのことが追認されたと考えられる。一方、この林分で比較的大規模な攪乱が起きた場合は、成長速度の早い

オガラバナ・ナナカマドの優占する相を経て、シラビソを主体とした相へ回復することが推察される。

コメツガを主体とした林分も、シラビソを主体とした林分同様、極相と考えられる。コメツガには小径木が少ないことから、小規模の攪乱が起こった場合、コメツガの樹冠下に生育するシラビソが再生し、さらにシラビソの枯死・倒木などの攪乱を機会にマウンドからコメツガが再生してくることが推察される。この林分に大規模な攪乱が起きた場合は、シラビソ林と同様に、オガラバナ・ナナカマドの優占する相を経て、シラビソ、コメツガの優占する相が、それぞれ特にマウンドから回復してくることが予想される。

サワラを主体とした林分は、今回の調査区では少なかった。しかし、林冠を占めているサワラの下にはほとんど樹木がないことや、サワラが集中的な分布をしていることから、サワラの同所的な更新が考えられる。

さらに、オガラバナ・ナナカマドが集中的に分布する調査区中央の沢すじの林分は、土壌がほとんどない。またオガラバナは20mを越えて大きくなることは少ないことから、この場所に生育する樹木はある一定の大きさ以上になると倒れてしまうことが推察される。本調査区においてこの部分は、オガラバナ・ナナカマドの優占する相、コメツガなどその周辺の大径木の枝が占める相、そして倒木による林冠のない相（ギャップ）という更新の過程がサイクリックに起こっていると予想される。

以上のように、本調査区では、微地形の違いやさまざまな程度の攪乱の存在から、多様な高木性樹種の同所的な生育が可能になっていることが推察される。

典型的な亜高山帯針葉樹林であるシラビソ・オオシラビソ林の更新は、オガラバナやナナカマドを介するパターンが多く観察されている（土田他，1993）。今回の調査区の更新パターンもこれとほぼ同様であるが、高木性樹種のオオシラビソが更新に関わらないことが異なる。

今後は、高木層を構成する樹種の1.2m以下の個体を調査することにより、稚樹の動態を明らかにし、さらに上述の仮説やシラビソ・オオシラビソ林との違いを検証していきたい。

さらには、残存する八ヶ岳山麓のサワラ林やウラジロモミ林の調査により、それらとの更新パターンの相違を考えていきたい。

## 5. 摘要

1. 長野県の八ヶ岳・蓼科山山麓でシラビソ・コメツガ・サワラの優占する亜高山性針葉樹林を調査し、その更新パターンについて考察した。
2. 調査林分は、発達段階の異なるパッチをモザイク状に含み、樹高の高い林分には、シ

図-6.  
調査区の  
樹冠投影図

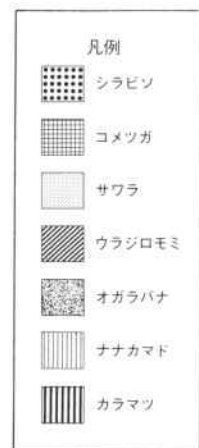
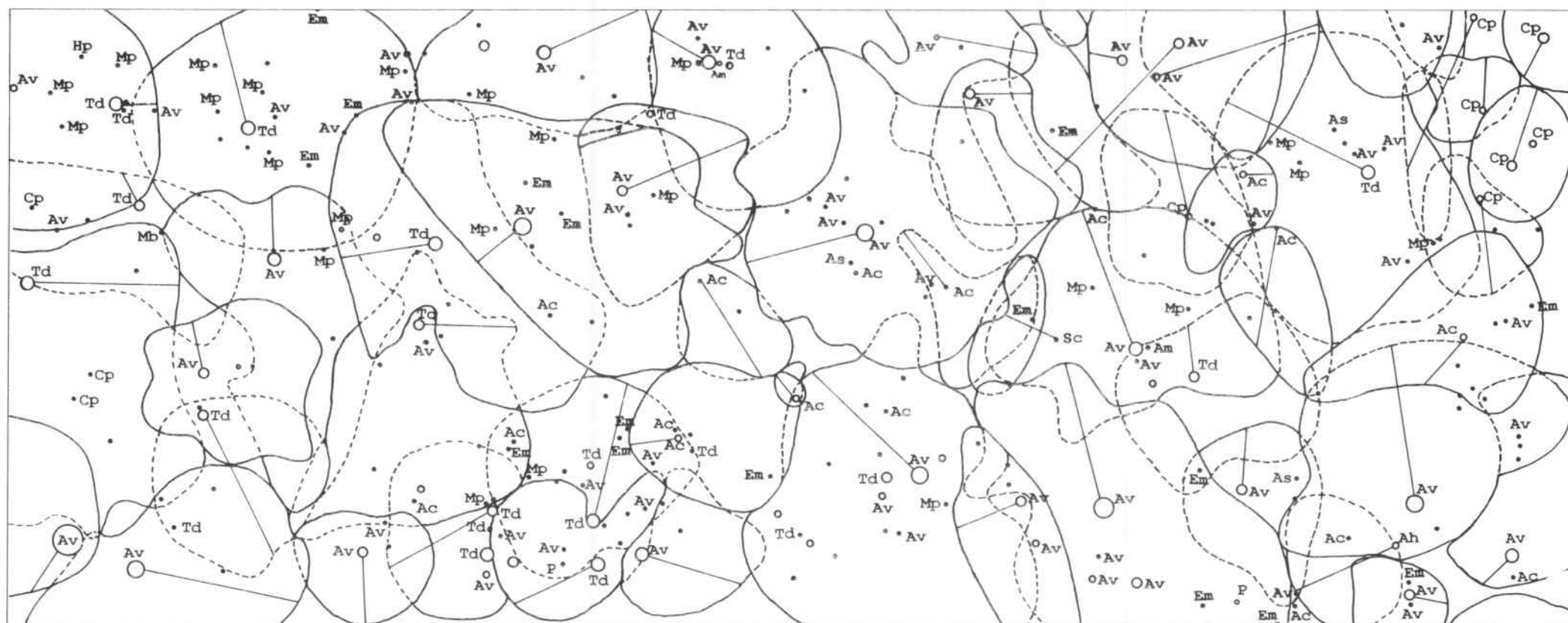


図-7.  
各個体の位置図

(略号は種名、表-1を参照。  
略号の表示がないものは、  
枯死個体)



ラビソ、コメツガ、サワラが優占していた。一方、発達初期段階の林分ではオガラバナ、ナナカマドが優占していた。

3. シラビソは、サイズ構成が連続的で、分布も一樣なことから、この調査区で安定的な更新が行われていることが推察される。

4. コメツガは、サイズ構成が樹冠を構成するような大きなサイズに偏り、稚樹は少ないことや、多くの個体がマウンドに生育していることから、同所的更新が推察される。

5. サワラも、稚樹は見られず、集中的に分布していることから、コメツガ同様の同所的更新が予想される。

6. 本調査区は、微地形の違いや様々な攪乱から、多種の高木性樹種の同所的な生育が可能になっていると考えられる。

## 6. 参考文献

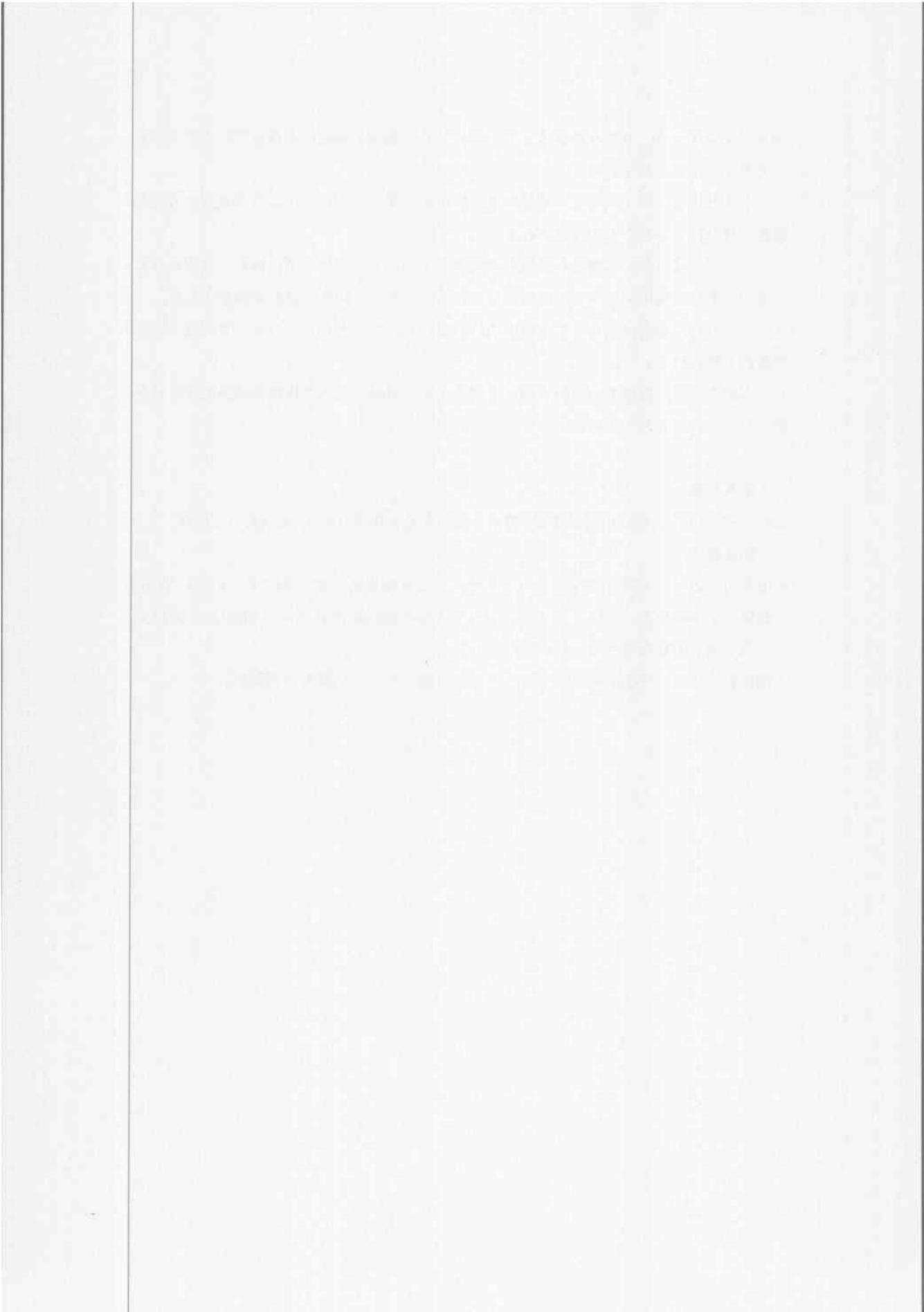
木村 充 1977. 亜高山帯の遷移. 群落の遷移とその機構 (沼田 真 編) : 21-30.

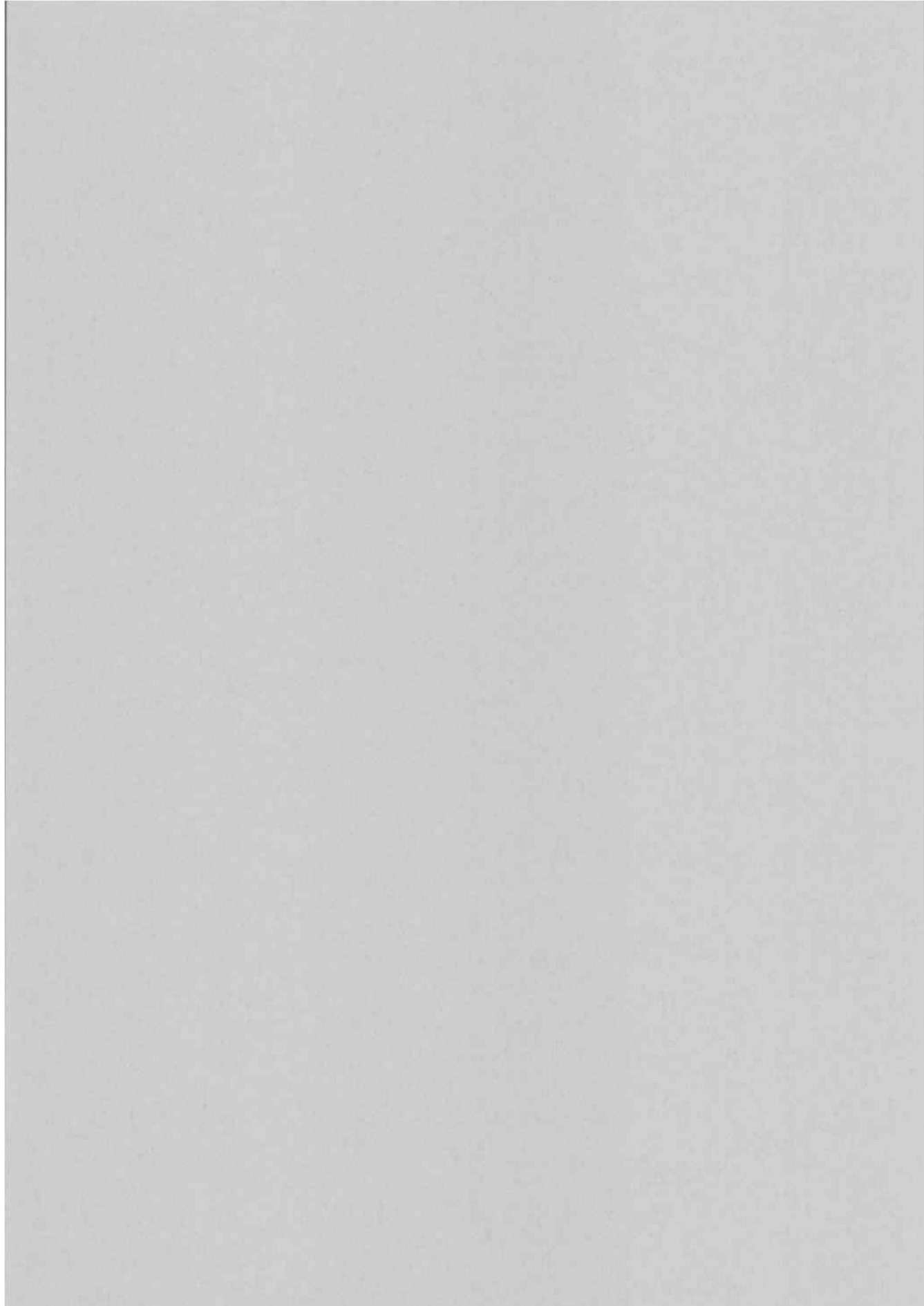
朝倉書店.

甲山隆司 1984. 亜高山帯シラビソ・オオシラビソの更新. 遺伝 38 (4) : 67-72. 裳華房.

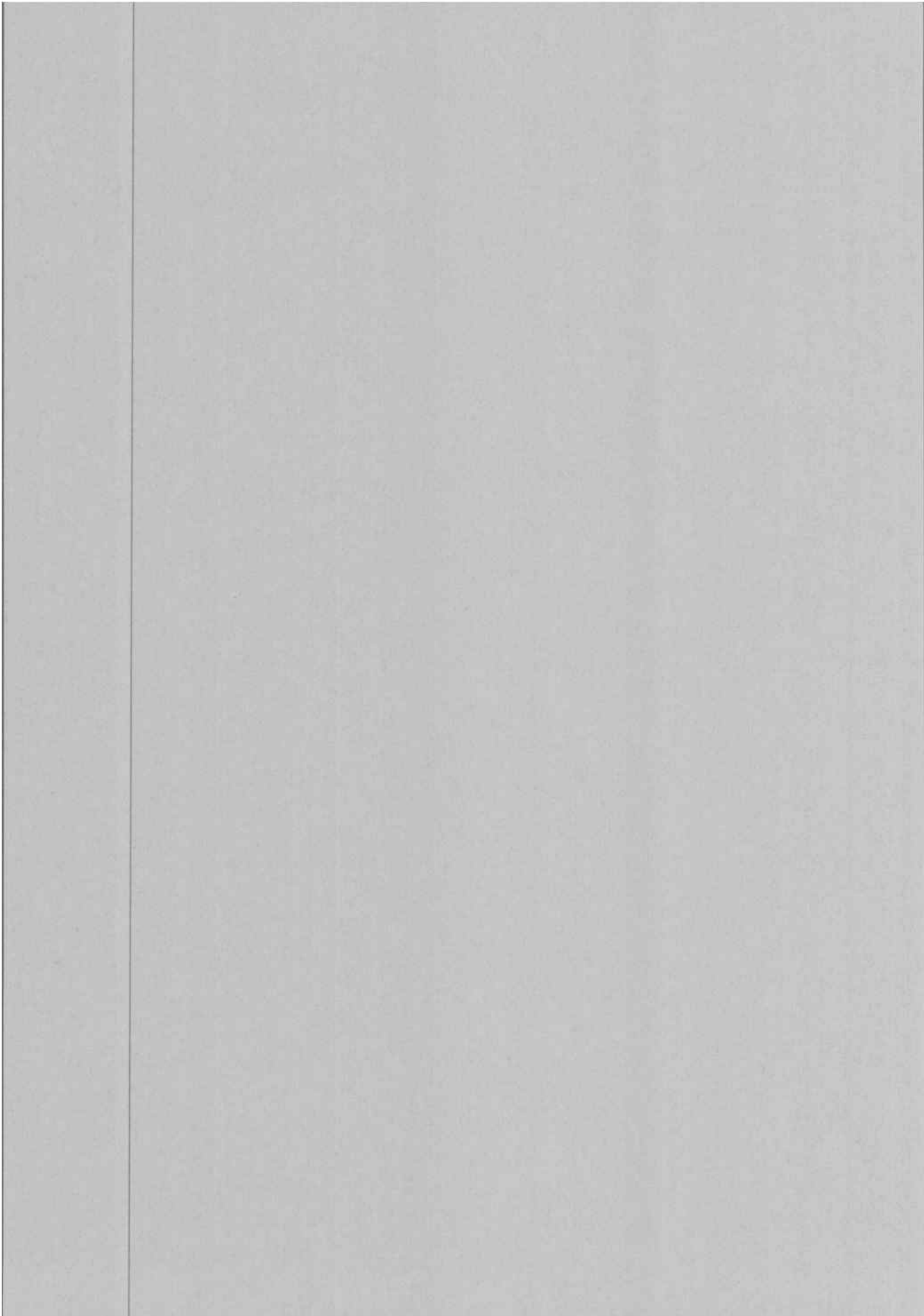
中村俊彦・小幡和夫 1982. シラベ, コメツガの生態的特性に関する研究 I, 東京大学農学部演習林報告 72 : 121-138.

土田勝義 1993. 亜高山帯生態系. 八ヶ岳の自然 : 38-63. 信濃毎日新聞社.









## 《平成5年度 茅野市八ヶ岳総合博物館事業報告》

### 1. 特別展

- (1) 西村 豊 写真展 『歳月を共に過ごしたキツネたち』  
7月24日(日)～8月22日(日)  
会期中入館者 5,980名
- (2) 民俗資料収蔵品展 『着る一明治・大正・昭和にみる衣服の移り変わりー』  
10月16日(土)～11月14日(日)  
図録の発行  
会期中入館者 1,160名
- (3) 第5回 研究・創意工夫展  
11月27日(日)～12月12日(日)  
市内小中学校生徒の作品展. 出展数167点 (274名と3クラス)  
会期中入館者 704名

### 2. ふるさと講座

- (1) 県外博物館見学と野外学習 (岐阜県瑞浪市化石博物館)  
10月3日(日) 参加者42名  
講師:小池春夫 (八ヶ岳総合博物館専門委員)  
成瀬 篤 (瑞浪市化石博物館学芸員)
- (2) 星空観察会  
10月23日(土) 参加者43名  
講師:畑 英利 (岡谷西部中学校教諭)  
大谷真理子 (原小学校教諭)
- (3) 冬の探鳥会ー諏訪湖のコハクチョウやカモたちを見に行こうー  
12月12日(日) 参加者27名  
講師:両角保雄 (諏訪湖白鳥の会)  
林 正敏 (日本野鳥の会諏訪支部)
- (4) 古文書解読講座 (土・日曜日・祝日に8回開催)  
1月15・23・30, 2月5・13・20・27, 3月6日  
参加者35名  
講師:細田貴助 (神長官守矢史料館長)

### 3. 博物館活用指定学級

12学級 458名参加

(「遊学教室」一市内小学校の1学級に博物館や野外現地に来てもらい、  
半日の日程で体験学習を行なう)

8月25日(木)	永明小学校	6年2組	43名	「土器作り」	講師：芳沢美香(学芸員)
8月26日(木)	永明小学校	6年1組	42名	「土器作り」	講師：同上
8月27日(金)	永明小学校	6年3組	43名	「土器作り」	講師：同上
9月2日(木)	湖東小学校	3年2組	23名	「まゆ人形作り」	講師：松沢かね(学芸員補)
9月22日(水)	豊平小学校	2年1組	39名	「牛乳パックで紙すき」	講師：永富直子(学芸員)
10月20日(水)	米沢小学校	6年1組	42名	「遺跡発掘調査現場と尖石考古館の見学」	講師：文化財調査室学芸員・尖石考古館長
10月21日(木)	米沢小学校	6年2組	41名	「遺跡発掘調査現場と尖石考古館の見学」	講師：同上
12月16日(木)	湖東小学校	5年1組	28名	「しめ飾り作り」	講師：渡辺正晴(茅野市米沢)
1月19日(木)	永明小学校	4年2組	37名	「テングサからところてんを作ろう」	講師：松沢かね(学芸員補)
1月20日(金)	豊平小学校	3年1組	39名	「テングサからところてんを作ろう」	講師：同上
2月10日(木)	米沢小学校	4年2組	56名(親子参加, 児童31名, 保護者24名)	「テングサからところてんを作ろう」	講師：同上
2月17日(木)	米沢小学校	4年1組	33名	「テングサからところてんを作ろう」	講師：同上

4. ロビー展（1月より「ロビー体験コーナー」と改称） 参加者 のべ約200名

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| (1) 4月18日（日）小鳥の巣箱作り      | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (2) 4月25日（日）籐細工          | 指導：樋口波子（茅野市米沢）     |
| (3) 5月2日（日）はたおり          | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (4) 5月16日（日）火きり作り        | 指導：渡辺正晴（茅野市米沢）     |
| (5) 5月23日（日）竹トンボ作り       | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (6) 6月6日（日）はたおり          | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (7) 6月13日（日）火きり作り        | 指導：渡辺正晴（茅野市米沢）     |
| (8) 6月20日（日）水の中の生物       | 指導：勝野貞義（茅野市立東部中教諭） |
| (9) 7月4日（日）石細工           | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (10) 7月11日（日）はたおり（下ごしらえ） | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (11) 7月18日（日）はたおり（織り）    | 指導：同上              |
| (12) 9月5日（日）はたおり         | 指導：同上              |
| (13) 9月12日（日）石細工         | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (14) 9月26日（日）竹トンボ作り      | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (15) 10月10日（日）はたおり       | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (16) 11月7日（日）小鳥の餌台作り     | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (17) 11月14日（日）はたおり       | 指導：篠原ちかえ（茅野市北山）    |
| (18) 11月21日（日）籐細工        | 指導：樋口波子（茅野市米沢）     |
| (19) 12月5日（日）小鳥の餌台作り     | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (20) 12月19日（日）まゆ人形作り     | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (21) 12月26日（日）しめ飾り作り     | 指導：平沢忠由（茅野市泉野）     |
| (22) 1月23日（日）たこ作り        | 指導：篠原淳朗（博物館長）      |
| (23) 1月30日（日）はたおり        | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (24) 2月13日（日）糸つむぎ        | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (25) 2月20日（日）わらざうり作り     | 指導：渡辺正晴（茅野市米沢）     |
| (26) 2月27日（日）はたおり        | 指導：松沢かね（博物館学芸員補）   |
| (27) 3月6日（日）わらざうり作り      | 指導：渡辺正晴（茅野市米沢）     |
| (28) 3月13日（日）小鳥の巣箱作り     | 指導：渡辺正晴（茅野市米沢）     |

## 5. ボランティア講座 (生涯学習センター共催)

参加者26名

### (1) 5月30日 (日)

・開講

・小講演会 「茅野の歴史」

講師：竹村美幸 (茅野市文化財審議委員長)

### (2) 6月27日 (日)

・小講演会 「茅野の気象」

講師：植松幹夫 (長野県霧ヶ峰自然保護センター)

### (3) 7月25日 (日)

・小講演会 「歳月を共に過ごしたキツネたち」

講師：西村 豊 (自然写真家)

### (4) 8月29日 (日)

・小講演会 「タウンウォッチング―街かど散策について―」

講師：藤森照信 (守矢史料館専門委員・東京大学助教授)

### (5) 9月19日 (日)

・小講演会 「山城について」

講師：宮坂武男 (前永明小学校長)

### (6) 10月31日 (日)

・小講演会 「小動物の生活」

講師：両角源美 (博物館専門委員・高島小学校長)

### (7) 11月28日 (日) 国立科学博物館見学

・国立科学博物館のボランティア活動について

講師：大堀 哲 (国立科学博物館教育部長)

・国立科学博物館におけるボランティア活動の視察

## 6. ロビー展示

(1) 明治から昭和初期にかけて制作された記念杯の展示

(2) 剥製の展示 (諏訪地方で見られる鳥類・哺乳類の剥製)

(3) 化粧道具・装身具の展示

## 7. 各種事業

- (1) ミュージアムコンサート（東京ゾリステン）…5月16日（土）  
博物館ロビーで開催（教育委員会共催） 入場者 220名
- (2) 優良映画鑑賞大会開催…2月6日（日）（教育委員会共催）  
「水の旅人」上映2回 入場者 726名  
映画入場者の常設展示無料見学
- (3) 茅野市の博物館だより「八ヶ岳通信」発行 第9号…10月15日  
第10号…2月28日
- (4) 紀要第4号発行…3月31日
- (5) 博物館学習会員 245名（大人 159名 小人 86名）  
会員入館者数 のべ約370名

## 博物館協議会委員名簿

(平成3年度～4年度)

委員長	武居幸重
副委員長	小平学
委員	平沢澄雄
	堀内杉雄
	朝倉良高
	両角源美
	花岡孝次
	土橋常雄
	小平邦雄
	矢島範子
	河西頼子
	井原栄子

(平成5年度(～6年度))

委員長	武居幸重
副委員長	小平学
委員	平沢澄雄
	宮坂友良
	伊藤公夫
	中村安男
	赤羽昭光
	長田並喜
	小平邦雄
	矢島範子
	藤田とし子
	井原栄子

## 茅野市八ヶ岳総合博物館専門委員名簿

〈平成3年度～4年度〉

植 物	阿 部 義 男
動 物	両 角 源 美
地 学	小 池 春 夫
陸 水	浜 篤
歴 史	藤 森 明
民 俗	牛 山 市 弥
産 業	細 田 貴 助
未 来	牛 山 圭 吾

〈平成5年度(～6年度)〉

植 物	土 橋 正 子
動 物	両 角 源 美
地 学	小 池 春 夫
陸 水	浜 篤
歴 史	藤 森 明
民 俗	牛 山 市 弥
産 業	伊 藤 岩 廣
未 来	牛 山 圭 吾



## 茅野市八ヶ岳総合博物館職員名簿

〈平成3年度〉

館長	宮坂和茂	嘱託
係長	戸田外史	
学芸員	鶴岡幸雄	文化財調査室兼務
	永田和	(4月退職)
	永富直子	
用務員	松沢かね	
臨時職員	土橋洋子	
	竹村純枝	
	両角京子	
施設管理	鮎沢信太郎	東急コミュニティー職員(委託)

〈平成4年度〉

館長	藤原淳朗	嘱託
係長	戸田外史	
学芸員	鶴岡幸雄	文化財調査室兼務
	永富直子	
	芳沢美香	
用務員	松沢かね	
臨時職員	土橋洋子	
	竹村純枝	
	両角京子	(8月退職)
施設管理	鮎沢信太郎	東急コミュニティー職員(委託)

〈平成5年度〉

館長	藤原淳朗	嘱託
係長	伊藤修平	
学芸員	永富直子	
	芳沢美香	
学芸員補	松沢かね	
臨時職員	土橋洋子	
	竹村純枝	
施設管理	鮎沢信太郎	東急コミュニティー職員(委託)

## 《平成5年度 茅野市神長官守矢史料館事業報告》

### 1. 特別展

茅野市神長官守矢史料館企画展

『守矢文書と中世の村』 8月3日(火)～8月29日(日)

会期中入館者 475名

### 2. 文書整理

9月29日から11月3日まで、民俗芸能史研究家 武井正弘氏（藤沢市在住）に文書整理を委託し、約1600点の守矢文書を整理、仮目録を作成。

### 茅野市神長官守矢史料館専門委員名簿

〈平成3年度～4年度・平成5年度（～6年度）〉

守 矢 早 苗	東京都江戸川区西小岩 5-4-11-202
藤 森 照 信	東京都国分寺市東元町 4-18-3
竹 村 美 幸	茅野市塚原 1-4-21
長 田 篤	茅野市ちの茅野町3055（平成4年度～）

## 茅野市神長官守矢史料館職員名簿

〈平成3年度〉

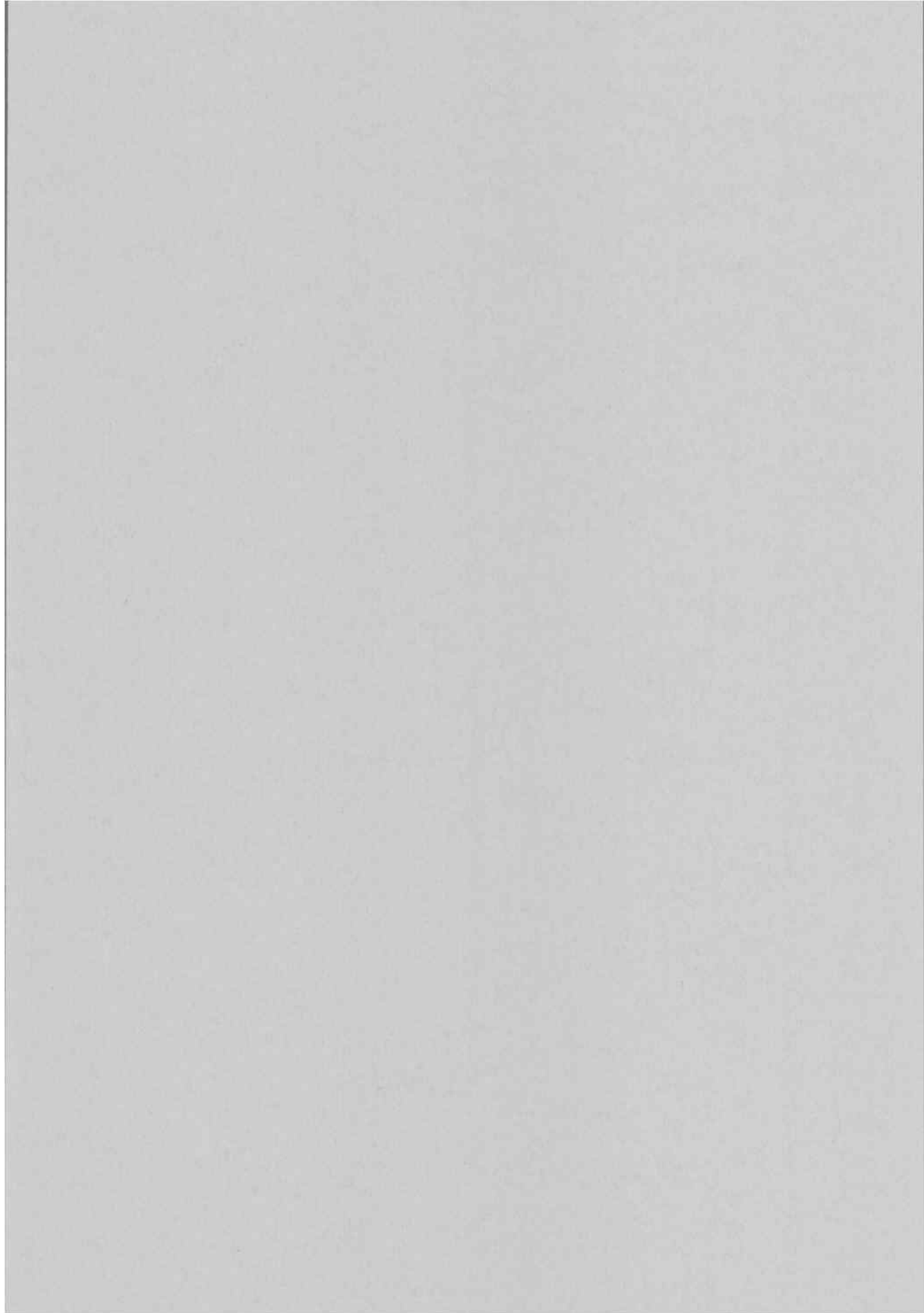
館長	細田 貴助	嘱託
学芸員	鶴飼 幸雄	文化財調査室・八ヶ岳総合博物館兼務
	永田 和	八ヶ岳総合博物館兼務
臨時職員	藤森 久雄	

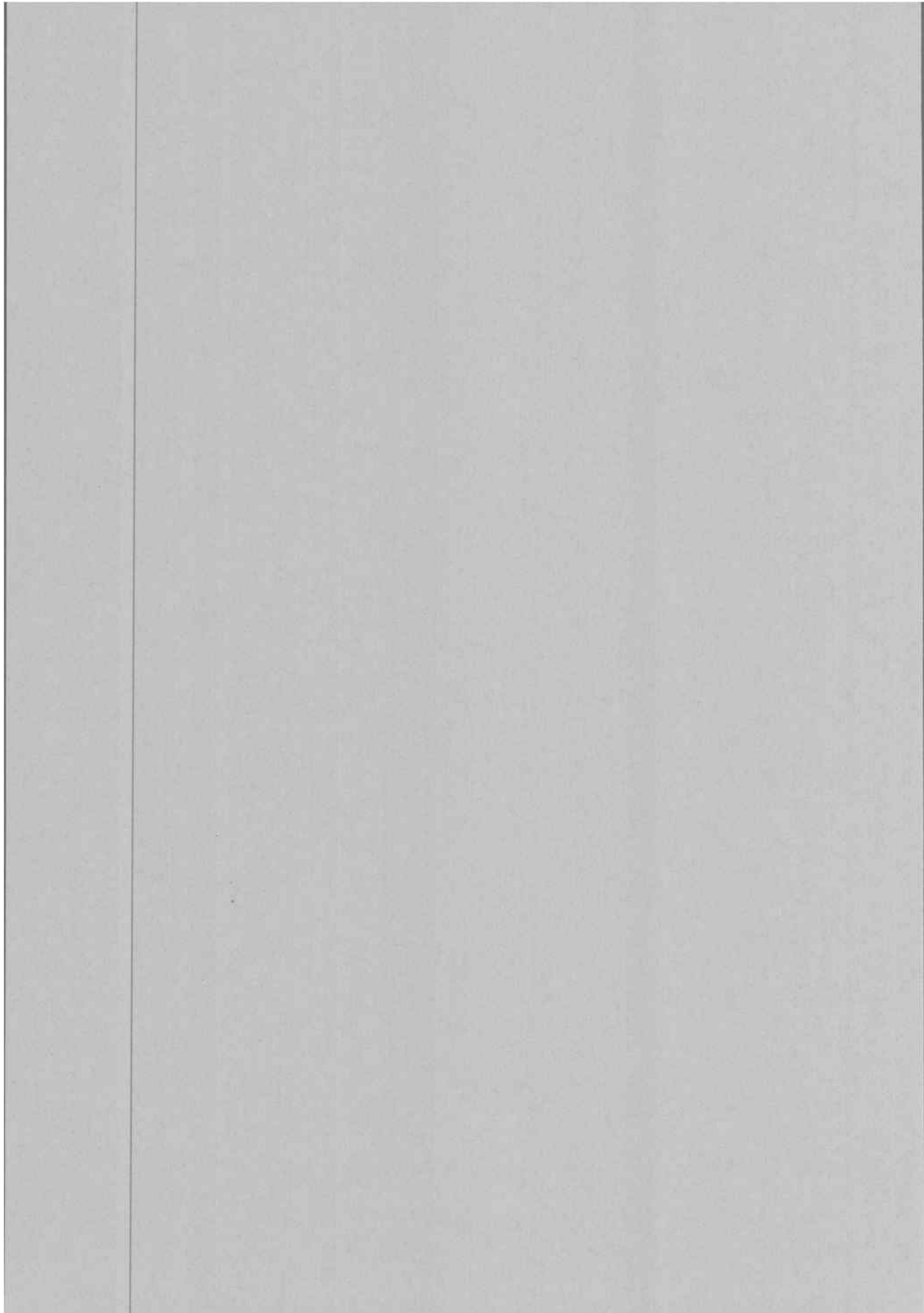
〈平成4年度〉

館長	細田 貴助	嘱託
学芸員	鶴飼 幸雄	文化財調査室・八ヶ岳総合博物館兼務
	芳沢 美香	八ヶ岳総合博物館兼務
臨時職員	藤森 久雄	
	立石 喜信	

〈平成5年度〉

館長	細田 貴助	嘱託
学芸員	守矢 昌文	文化財調査室兼務
	芳沢 美香	八ヶ岳総合博物館兼務
臨時職員	藤森 久雄	
	立石 喜信	





1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1966

1967

1968

1969

1970

1971

1972

1973

1974

1975

1976

1977

1978

1979

1980

1981

1982

1983

1984

1985

1986

1987

1988

1989

1990

1991

1992

1993

1994

1995

1996

1997

1998

1999

2000

2001

2002

2003

2004

2005

2006

2007

2008

2009

2010

2011

2012

2013

注

(1) 守矢家文書『年内神事次第旧記』には「みさくうし」同じく「諏方大明神画詞」には「御作神」とある。その他「ミサグチ」「ミシヤグチ」「ミシヤクヂ」等の呼び方がある。もとはどう呼ばれていたのかは、今後の課題として残されている。

(2) 以上は伝承による。

(3) もとは室町時代に諏訪氏の一族の一人小坂円忠が記した絵巻物。一四七二年に宗詢という僧が文字(言葉)のみを書き写したものが今に伝わっている。絵巻物は現存していれば国宝級のものだといわれるが、残念ながら残っていない。

(4) 前回寄託を請けた文書は四十四点と「諏方大明神画詞」の四十五点。什器等は、七品目が寄託されている。その内文書三点と什器等四点は、神長官守矢史料官にて展示中のため、収蔵庫には、四十二点が収められている。

《参考文献》

茅野市史編さん室編『茅野市史 上巻』(一九八六年)

茅野市文化財審議委員会編『茅野市の文化財』(一九八八年)

茅野市神長官守矢史料館編『守矢史料館のしおり』(一九九一年)

\*茅野市八ヶ岳総合博物館兼茅野市神長官守矢史料館 学芸員

これら作業が終了したのは、十一月三日のことである。この間、十月二、三、十一日以外は、作業が続けられた。

十一月三日、収蔵庫に文書を収納するとき、新たに文書が発見された。十一月二十二日、武井氏が改めて来館し、それら文書の整理を行なう。

その後、欠番を確認し、欠番のあったところを順送りして、最終的に一千六百点の文書を確認した。

文書整理作業参加・協力者は次の方々です（敬称略、順不同）。

武井正弘

《文化財審議委員》

竹村美幸 宮坂武男 牛山市弥 五味和男

《博物館協議会委員》

武居幸重 平沢澄雄 小平 学 宮坂友良 小平邦雄

矢島範子 藤田とし子 井原栄子

《諏訪研究会》

藤森 明 倉沢健郎 北原優美 宮坂寛美 藤森久雄

原田哲郎 竹村侑子 清川理一郎 二木ちせ子 宮沢昌歳

原 直正 桜井弘人

《教育委員会事務局職員》

大久保美知男 牛山勝喜 金井和人 清水利恵 菊池三

千代

《文化財調査室》

永田光弘

《八ヶ岳総合博物館》

伊藤修平 土橋洋子

《神長官守矢史料館》

細田貴助 芳沢美香

これら作業協力を得て守矢家文書の仮目録を作成することができたこと、紙面を持ってお札に替えさせていただきます。

### これからの展望

形態・年・月・日等の概念が、多種多様に及んでいること、文書の内容はほとんど無視した目録であること等、目録カードの補足がまず必要である。

その作業が終了し次第、本格的な目録作りに着手したい。それを、時代別・形態別・内容別のどういったものにするかは未定であるが、その際、大祝家文書等、諏訪上社に関する文書目録等と歩調を合わせることも必要だと思われる。目録作りと並行して守矢早苗氏と守矢家史料の寄託契約を交わすための準備を行っていききたい。

マイクロフィルム化も検討中であるが、現在は、目録が完成したところで、コピー資料を市民に提供できるようにと考えており、一日も早い公開にむけて、作業を進めていきたい。



の民俗芸能史研究者・飯田市美術博物館客員研究員武井正弘氏来館。教育長、大久保課長、神長官守矢史料館細田館長、篠原館長、博物館伊藤係長、守矢史料館専門委員・文化財審議委員長・長野県文化財保護指導員竹村美幸氏と共に文書整理の打合せを行なう。諏訪研究会発起人でもある武井氏により諏訪研究会会員の皆さんの、ボランティアでの作業協力を得、その日より守矢家文書整理作業を開始する。

作業は、八ヶ岳総合博物館第二展示室リニアギャラリーを閉鎖し、そこで行なった。

入室に当り、土足厳禁。禁煙。バック・鞆類は、文書の粉失を避けるため、指定場所以外には置かない、持ち込まないこと。お茶、食事等も指定場所以外ではとらない。整理作業参加者は、参加者名簿に記名すること。以上の注意が促された。

武井氏は、すでに藤沢市にて整理作業に着手していたため、その続きから作業が行なわれた。

文書の実物大コピーを二部、七十一パーセントの縮小コピー（表紙や、文頭等一部分のみでも可）を一部づつ撮った。

実物大は、公開用とし、縮小コピーは、目録カード用である。目録カードは、右上に、箱から取り出した順番で、一番から番号を付ける。以下、タイトル・文書から読み取れる年号・名前・寸法・形態・数量を記入し、縮小コピーを添付したものを二通作る。一通は原本用に、もう一通は確認用に作る。

一通りのコピー取りと、目録作りが終了したら、文書・確認用目録・コピー（副本）の三つを照合し、確認作業をする。（ここで落ちがないか確認する）目録がない場合は、原本用目録を確認し、それでもない場合は、新たに目録を作る。三点が揃ったものは、目録の番号にあわせ、ラベルに番号を記入し、副本に貼り付ける。原本は、封筒にしまい、封筒に番号付けをする。



作業風景（茅野市民新聞社写真提供）

を取り、口移しで秘法として引き継いでいきました。

しかし明治初期、洩矢ノ神から七十六代目を数える守矢実久の時代に神仏分離令が出され、また太政官布告により世襲神官の廃止が決まりました。それに伴って、祈祷殿も取り壊されてしまいました。

神長の祭祀が消えることを惜しんだ実久は、その後、祈祷殿を再建し秘法の一部を、七十七代真幸に口伝しました。しかし、真幸から次世代に引き継がれることはなく、それは今となつては、知ることのできないものとなつてしまいました。

### 神長官守矢家文書について

こうした歴史を持つ神長官守矢家には、たくさんの史料が残されています。大祝職位に関するもの、御柱造営に関するもの等、諏訪上社神祭事にかかわるものもとより、歴代神長官の手記、書留や、鎌倉幕府からの下文、織田、武田、北条といった戦国武将からの文書も見えます。

こうした史料により諏訪神社の歴史や、諏訪神社に対する権力者の信仰、崇敬だけでなく、中世の信濃の諸豪族の動きを窺い知る事ができます。

現在、『諏方大明神画詞』<sup>3)</sup>や、『年内神事次第旧記』、『諏訪御符札之古書』、『大祝職位事書』といった、諏訪神社の縁起書や、諏訪明神の功德、神事についてを著わしたものの、

『守矢満実書留』、『守矢頼真書留』などの、彼らを取り巻く出来事を書き留めたものを含む中世史料百五十五点が長野県宝に、その他近世史料五十点が茅野市の文化財に指定されています。

茅野市神長官守矢史料館は、これらの守矢家に伝わる史料を永久的に保存し、且つ展示する目的で、平成三年三月に七十八代当主守矢早苗氏の協力により開館しました。

### 文書整理について～仮目録作成まで

平成五年八月二十九日に行なわれた守矢史料館の専門委員会、まだ寄託を請けていないものも含む守矢家文書の活用に向けた粗整理の必要性についての話題が出、それを行なう事にする。

九月十五日午後三時、東京都江戸川区の守矢早苗氏宅より段ボール箱三個に収められた守矢家文書が、茅野市八ヶ岳総合博物館に届く。教育委員会生涯学習課大久保課長、八ヶ岳総合博物館篠原館長が立会い、第一収蔵庫奥の部屋に、前回寄託を請けた四十二点の文書、什器三点と共に収める。<sup>4)</sup>

九月二十日、文化財審議委員・博物館協議会委員計二十一人の方々にボランティアによる文書整理作業協力要請の通知を出す。

九月二十九日、文書整理を委託した、神奈川県藤沢市在住

# 神長官守矢家文書整理について

芳澤美香\*

## 神長官守矢家について

現神長官邸のほど近くに、守屋山があります。守屋山は、原始社会の人々から山・水霊の静まる山として崇拜されるばかりでなく、生活にかかわり、豊饒祈念（トヨトヨノイハヒ）を支配する山とされてきました。この祭祀をつかさどる氏集団を洩矢族（ウレヤ）といい、その長の洩矢ノ神は、呪術により集団を治め崇拜されてきました。神長官守矢家は、その子孫だといわれています。

洩矢ノ神は、地主神として自然崇拜に基づく原始信仰から発展した「御左口神信仰」<sup>1)</sup>を形成し、その思想により統治してまいりました。

やがて侵入してきた出雲族との戦いに敗れはしたものの、人々の洩矢ノ神に対する信仰心が、薄れることはありませんでした。

そこで、出雲族の首長は、守屋山に対する自然崇拜をそのままにして、洩矢ノ神の呪術的降神による神託によって、祭

祀を行う形式で祭政一体の統治を行うことにしました。

こうした統治の方法を取るには、洩矢ノ神を表面に立て、出雲族の首長は、その上に君臨しなければなりません。そこで首長は、自ら神主でありながら神として存在する現人神となりました。祖神に大国主命の子神、建御名方神を持つこの出雲族の首長は大祝といい、これらの信仰は現在の諏訪信仰へと移行していきます<sup>2)</sup>。

洩矢ノ神は、大祝を補佐する諏訪上社の五官（神長・祢宜・権祝・擬祝・副祝）の内の筆頭である神長（後に神長官とよぶ）職に就き、これら五官の職は、先祖代々引き継がれて行きました。

特に神長家では、大祝の職位（現人神になる儀式）や、主なものだけで年内に七十以上ある神事祭祀をとり行い、政務事務を掌握するなど重要な任務がありました。これら、祭祀の執り行い方等を守矢家邸内にある祈祷殿で、一子相伝の形

## 目 次

第一章 緒論	1
第二章 基礎理論	10
第三章 實驗方法	25
第四章 實驗結果	45
第五章 結論	65

## 附 錄

附錄一 常用物理常數表	70
附錄二 常用單位換算表	75
附錄三 常用數學公式表	80
附錄四 常用儀器使用說明書	85
附錄五 常用材料性能表	90

## 參考文獻

1. 物理學辭典	1
2. 物理學實驗教程	10
3. 物理學實驗儀器使用說明書	25
4. 物理學實驗數據處理	45
5. 物理學實驗報告範例	65

6. 物理學實驗設計	70
7. 物理學實驗教學法	75
8. 物理學實驗儀器維修	80
9. 物理學實驗儀器校準	85
10. 物理學實驗儀器保養	90

## 目次

- ・守矢文書の整理について……………芳澤 美香 (二)
- ・茅野市八ヶ岳総合博物館 鳥類標本目録……………永富 直子 (一)
- ・ヤママユガ飼育日誌……………松沢 かね (11)
- ・八ヶ岳山麓に分布するシラビソ・  
コメツガ林の更新の一例(1)……………大谷 勝己 (23)  
永富 直子
- ・年報(茅野市八ヶ岳総合博物館・  
茅野市神長官守矢史料館)……………(33)

---

---

紀 要 第 4 号 1994年 3月30日

編集発行 茅野市八ヶ岳総合博物館  
〒391 長野県茅野市豊平6983番地  
TEL 0266 (73) 0300  
FAX 0266 (72) 6119

---

---

紀  
要

第  
四  
号

〔平成五年度〕

茅野市八ヶ岳総合博物館